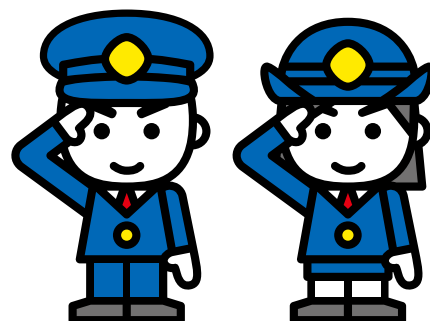


報告書

全国消防団員意見発表会、
消防団等地域活動表彰式、
防災功労者消防庁長官表彰式
及び
消防庁消防団協力事業所
表示証交付式

平成31年3月 消防庁



報告書

全国消防団員意見発表会、
消防団等地域活動表彰式、
防災功労者消防庁長官表彰式
及び
消防庁消防団協力事業所
表示証交付式

目次

主催者挨拶	1
平成30年度 全国消防団員意見発表会	3
意見発表	5
審査員紹介	20
審査員講評	21
平成30年度 表彰式等	27
来賓祝辞	28
消防団等地域活動表彰(消防団表彰)	30
消防団等地域活動表彰(事業所表彰)	31
防災功労者消防庁長官表彰	32
消防庁消防団協力事業所表示証交付	34
受賞者代表謝辞	36
平成30年度 消防団等地域活動表彰受賞団体	37
消防団表彰	38
事業所表彰	49
平成30年度 消防庁消防団協力事業所表示証交付団体	57

主催者挨拶

日程 平成31年2月10日(日)

会場 ホテルルポール麹町 2階ロイヤルクリスタル

主催者挨拶

消防庁長官

黒田 武一郎



「平成30年度全国消防団員意見発表会、消防団等地域活動表彰式、防災功労者消防庁長官表彰式及び消防庁消防団協力事業所表示証交付式」の開会に当たり、一言、御挨拶申し上げます。

皆様方におかれましては、お忙しいところ、全国各地からお集まりいただき、誠にありがとうございます。また、日頃から消防防災行政の推進に御理解と御協力をいただき、重ねて感謝申し上げます。

さて、今年度を振り返ってみますと、日本各地で様々な災害が発生しております。とりわけ、「平成30年7月豪雨」では、非常に広い範囲で被害が発生し、活動中の消防団員を含む多くの尊い命が失われました。

また、「平成30年北海道胆振東部地震」では、広範囲で土砂災害や液状化現象が発生し、多くの方々が犠牲になりました。

そのような状況にあって、消防団員の皆様は、御自身が被災者となった方もいらっしゃる中、いち早く現場に駆け付け、住民の安否確認や救助をはじめ、避難所支援や地域の巡回など、昼夜を分かたず、御活動いただきました。皆様のご活躍に改めて敬意を表しますとともに、感謝申し上げます。

現在、消防団員に占める被雇用者の割合が7割を超えております。このような中、消防団が継続的に地域防災力の中核的な役割を果たしていくため

には、事業所の皆様の消防団活動に対する御理解と御協力が欠かせません。

消防団員の確保をはじめ、地域防災力の充実強化に多大な御貢献をいただいている事業所の皆様に対し、改めて厚く御礼申し上げます。

消防庁では、消防団の充実強化に向け、基本団員はもとより、女性団員や学生団員、機能別団員の増加による消防団員の確保をはじめ、装備・資機材の充実強化、処遇の改善など、精一杯努力してまいります。

本日は、表彰式に先立ち、全国から選ばれた11名の消防団員による意見発表会を行います。発表者の皆様は緊張もあると思いますが、むしろ、その緊張を力に変えていただくとともに、この発表の場を楽しむ気持ちで臨んでいただきたいと思います。

結びに、本日御参加の皆様の御健勝と御多幸を祈念いたしまして、挨拶といたします。

平成31年2月10日

消防庁長官 黒田 武一郎

平成30年度 全国消防団員意見発表会

日程 平成31年2月10日(日)

会場 ホテルルポール麹町 2階ロイヤルクリスタル



平成30年度 全国消防団員意見発表会



最優秀賞及び優秀賞を除き発表順、敬称略

賞	都道府県	所属消防団	発表者	発表演題
最優秀賞	鹿児島県	いちき串木野市消防団	内野 里映	「できる人」へ
優秀賞	福島県	いわき市消防団	赤津 智彦	育てよう！未来のヒーロー！
優秀賞	静岡県	静岡市消防団	山口 宗谷	消防団における大学生の立場について
優良賞	秋田県	湯沢市消防団	佐藤 章	二種類の経験
優良賞	群馬県	前橋市消防団	阿久沢 宏	「きっかけ」
優良賞	埼玉県	川越市消防団	齋藤 由香	これからの消防団承継を考える時
優良賞	岐阜県	中津川市消防団	黄地 いづみ	命を守る～その思いを広げるために～
優良賞	奈良県	桜井市消防団	寺林 啓一郎	歴史と経験から未来へ
優良賞	和歌山県	那智勝浦町消防団	貝岐 直哉	経験をつなげる
優良賞	広島県	廿日市市消防団	村田 千晴	「つながり」
優良賞	沖縄県	中城北中城消防組合消防団	比嘉 竜己	消防団の誇りと職責



〈全国消防団員意見発表会〉



「できる人」へ

鹿児島県 いちき串木野市消防団
内野 里映



皆さんの周りの消防団の方はどんな方ですか？
私が思い浮かべるのは、知識も経験も豊富で、頼りになる先輩消防団員の方々です。そして、自分の父と同年代、またはそれ以上の年齢の方々でもあります。

今、私の所属するいちき串木野市消防団でも、高齢化が進んでいます。

ベテランの方々のおかげで、いざ、という時の行動に悩むことはありませんが、いつまでも先輩達に頼ったままではられません。自分自身が、若い世代が、自ら動けるようにならないといけません。

地域の水利の場所、ホースの扱い方など、私が消防団員として学んだことは多々ありますが、これから学ぶべきこともまだまだあります。

入団当時学生だった私は、自分に何がどこまでできるのか、様々な不安があり、今でも「できる」ことより「できない」ことの方が多いと自覚しています。

ですが、できないことを無理にするのではなく、自分にできることをすればいい、そう先輩方に言っ

てもらい、できる範囲で様々な経験をさせてもらいました。操法大会への出場、災害時の見回りも、消防団に入らなければ経験できなかったことです。そして、消防団による地域に根差した活動の大切さも、実感を伴って知ることはなかったと思います。私が消防団で学んだ一番のことは「知ること」の大切さです。

火事や災害が起こってからすぐに行動することも大事ですが、災害が起こる前に備えておくべき知識、対策が、より必要とされています。防災訓練への積極的な参加や、毎月の地理水利調査、重たいホースが持てなくても、そのホースに漏れがないか、カップリングに異常はないか、各種資機材が所定の位置にあるかなど、私でもできることはあるのだと知りました。「いざ」という時、自分にできることを知っていること、できることを探せることが大事なのだと思います。

ですが、全てが私ひとりでできることではありません。だからこそ、同じように動くことが「できる」人材が必要なのです。

現在動くことが「できる人」はいずれ「できなくなる人」になります。それは加齢による体力や筋力の衰えといった、誰にでも等しく訪れる限界です。若者世代からの人材の確保は、常に重要な課題だと言えます。

人材を増やすには、まず消防団そのものを若い世代に知ってもらう必要があります。命を守る地域防災力が注目されている今、消防団の存在は格段に知名度を上げています。そこから、若い世代を

引き込むには、メディアへの進出は不可欠ともいえるでしょう。消防団の存在、必要性がもっと広く知れ渡り、その活動に意義を見出す若者が増えるよう、自分も積極的に関わっていきたい、そんな思いで今、私はここに立っています。

なぜ若者なのか？それは活動における体力的な面から、というだけではありません。世代から世代へ、知識の伝承を行う必要があるからです。

消防団のもつ知識は、その地域ならではのものがたくさんあります。多くの世代がかかわることで私の大切な人を、町を、守ることになり、災害につよい街づくりにつながっていくものと考えます。

そんな知識を学ぶことができる、学んだ知識を活かすことができる、その経験を次の世代へ繋ぐことができる、そんな人になる為、そんな人を増やす為、私は消防団として歩み続けます。自らの地域は自ら守るという先輩方の熱き想いを受け継ぎ、「いざ」という時に行動できる消防団員になれるその日まで。ご清聴ありがとうございました。





育てよう！未来のヒーロー！

福島県 いわき市消防団
赤津 智彦

「ごめんください。地元の消防団なんです、ちょっとお時間いいですか。

消防団に入っただけませんか。消防団は、地域に貢献できるし、人とのつながりもできるし、悪くないと思いますが…」

「うーん、消防団ね。仕事してるし、あんまりお酒飲めないから、他を当たってください。」

このように、消防団員の勧誘活動は、お宅を訪問しても、誤ったイメージが定着していて、なかなかうまくいかないのが現状です。

今後は、若者の人口減少がさらに進み、団員の確保、団員の高齢化は、ますます深刻な問題となっていくことでしょう。

私が月に一度の機械器具点検へ行こうとしたある日、六歳になる娘が「パパ。消防団のお仕事行ったらっしょい。

今日のパパはカッコいいね。私も大きくなったら、消防団をやってみたいな。

休め！気を付け！かしら一中！」と、敬礼をしながら見送る娘の姿が目に映りました。

カッコいいかぁ、何か照れくさいけれど、嬉しいなと感じる一方で、一つの考えが私の頭に浮かびました。

これまでどおりの勧誘も大切ですが、それに加えて、未来のある子供たちへ、消防団の素晴らしさを知ってもらい、大人になったら自然と消防団に入りたいと思う子供たちを育てることが必要であると強く考えました。

童話「北風と太陽」の北風のように、強引に、人の

気持ちを考えず、「消防団に入ってください」という一方的な勧誘では、人は動きません。

太陽が行ったように、自らの意志で入団する環境を整えていくことが、これから求められる消防団の使命ではないでしょうか。

その環境づくりの提案として、一つ目に、小・中学校の避難訓練で、ポンプ操法や規律訓練を披露し、消防団のかっこよさを知ってもらうこと。

二つ目に、課外授業の一環として、ボランティア精神を持った消防団の仕組みについて授業を行い、消防団の素晴らしさを知ってもらうこと。

そして、最後に、消防団入団体験を行い、消防団のやりがいを知ってもらうことが挙げられます。

つまり、学校と地元消防団が協力して、消防団の魅力を知ってもらう機会をたくさんつくっていくことが重要であると考えます。

このような活動を通じ、子供たちに直接肌で感じ取ってもらい、将来、自らの意志で入団してくる若者を育てていかなければならないと考えます。



これらの取り組みが実を結ぶまでには、時間がかかると思います。しかし、諦めず、そして、粘り強く、草の根的に活動すれば、必ず大きな実が熟し、団員不足の解消につながるのではないのでしょうか。

私たち消防団は、消火活動は勿論のこと、行方不明者の搜索、風水害時の水防活動、さらには、未曾有の被害をもたらした東日本大震災など、市民の安全・安心を確保するために、多岐にわたって活躍している、みんなの身近なヒーローです。

今、私たち消防団がやらなければならないのは、この未来ある子供たちに、消防団の魅力を伝えていくことではないのでしょうか。

「ねえねえ、消防団のおじちゃん。僕も大人になったら、おじちゃんみたいに消防団に入って、困っている人たちをたくさん助けたいな。だって、おじちゃんは正義のヒーローみたいで、カッコいいんだもん。」

そう言ってくれる子供たちがたくさん育む環境を、私たち消防団で作っていかうではありませんか。

炎より燃える熱い心で…。





消防団における大学生の立場について

静岡県 静岡市消防団
山口 宗谷

私は静岡市消防団 静岡第8分団に所属している団員、山口宗谷です。私は静岡大学4年生です。入団したのは大学1年生の1月で、応急手当普及員や機関員資格を取得し、現在は方面隊広報委員としても活動しています。

近年、消防庁は消防団への大学生の参加を推進しており、その人数も増加しています。今回、私は自らの活動経験から、学生消防団員に多い機能別団員について考えました。

消防庁は大学生の入団推進についていくつかの方法を提唱しています。大学の配慮・証明書の交付・入団資格の緩和・機能別団員の4つが主に挙げられます。

大学の配慮とは、消防団活動を学習的な活動として認め単位を出すといった修学上の特典や、災害出動時の授業補習制度を整えるといったものです。

証明書の交付とは、公文書として大学生の消防団活動を証明することで就職へのアピールとしてもらう制度です。

入団資格の緩和は、従来の居住・通勤者に加えて通学者も入団条件とすることです。私自身もこの緩和により静岡市消防団に入団することができました。

最後が、モデルケースとして多く取り上げられる、大規模災害や訓練、広報に特化した機能別団員という制度です。

この制度は入団への心理的ハードルや、活動の時間的負担を軽減できることがメリットです。

一方で、デメリットも存在します。

まずは、技能の問題です。私の分団では月3回の機械手入れを行っており、ここで操作方法を学びます。資機材は継続的に訓練をしないと安全に操作することはできません。自主防災組織では可搬ポンプの扱いでさえおぼつかないところもあります。機能別団員にこのようなことを期待することは難しいと考えられます。

次に、知識の問題です。大規模災害で必要なのは地元の知識です。発災直後には住民の安否確認に加わります。緊急援助隊が派遣されてきたときは案内人として活動します。普通の分団員は出動や夜回り、水利調査を通じて、地域の地理・水利・住民に関しての知識を蓄えます。しかし、地域との関わりの少ない学生機能別団員が防災訓練へ出向するのみではこれらの知識を得ることは難しいです。

最後に、経験の問題です。私はこの3年間で多くの火災現場を経験しました。最初の出動では、緊張で手が震えて防火衣のチャックすら閉められませんでした。建物が炎上すれば、2時間以上、暑く重い



防火衣で活動が続けます。こうした非日常の環境で冷静な判断を行うには経験を積むしかありません。消火とは単に炎に水をかけるだけではなく、延焼阻止・危険排除・排煙・破壊を組み合わせることで最終的に鎮火に至ります。こういった知識も経験を伴って初めて実感できます。

これらのことから、機能別団員は通常の団員とは全く異なるものと判ります。団員を集めるのは消防力を強化するための手段です。しかし、その手段が目的と入れ替わっているのではないのでしょうか？

現在、多くの学生消防団員は機能別団員としての活動です。これは、多様な年齢・職業の人と交流できる消防団の長所さえも失っているのではないのでしょうか。社会人より余裕のある大学生の内に、一般の団員としての活動を経験することは、防災に関心を持ち、資機材を扱える人材を育成し、将来的な消防力の増加に効果的です。また、地元で根差した大学生となることで、地域での就職・居住を考

えるキッカケとなります。多様な社会人と交流することはコミュニケーション能力を高めます。災害現場では溢れる体力を活かせます。この大学生の特性を考えると、「学生だから機能別」と一概に決めつけずに、柔軟な対応が必要であると思います。





二種類の経験

秋田県 湯沢市消防団
佐藤 章



6年前の4月、私は20年間過ごした関東から、妻と娘2人の4人で、生まれ故郷である秋田にUターンをしました。家業である農業を父から学びながら、手探りの日々は、あっという間に過ぎ、気付けば地元の公民館の雪囲いの季節になっていました。この雪囲いの時、私は消防団員に誘われたのでした。曖昧な返事は入団の意思があると思われたようで、3日後には市の消防担当の方が制服を家に届けに来て、靴のサイズを聞かれ、あれよあれよと入団に至っていました。

それから半年ほど経った頃、私にとって消防団員として初めて消火活動をする日を迎えました。その日は早朝から外作業をするため朝5時には起きていました。作業中、先輩の団員が通りかかり、火災が起きたと聞き、一緒に現場に向うことになりました。現場では家屋と小屋が燃えており、駆けつけた時には既に全焼状態で、くすぶっていた燃え残りの鎮火を言われるまま、見よう見まねで手伝うのが精一杯でした。翌朝、現場の状況を新聞で知りました。この火事で、現場に住んでいた母親と幼い子供が命を落としたと載っていたのでした。無我夢中で消火活動をしていたその場所で、人が亡くなっていたとは、想像もしていませんでしたし、とてもショックを受けました。その幼い子供は娘と年が近く、生きていたなら同じ空間を過ごしていたのだと思うと、今でも胸が締め付けられる思いです。

このこと以外にも、消防団員としての活動をいろいろと経験しましたが、ふと考えたことがあります。もしUターンをしていなかったら？消防団員という経験をしたのだろうか。20年間関東で

家庭を持ち、過ごしましたが、消防団の活動を目にしたことも聞いたことも、ましてや団員に誘われることもありませんでした。故郷と前に住んでいた地域と何が違うのだろうか。一番に浮かんだのは「横のつながりの希薄さ」です。特に男性同士の交流は皆無に近いです。新興住宅地でベッドタウンということも大きな原因の一つでしょう。昼間は仕事に出ていくため、会うこともありませんし、休日はそれぞれの家庭で過ごすため、やはり会う機会はあまりありません。私もそういうふうにごろごろしていたと思います。つまり私は異なった二種類の経験をしていることになります。関東では個々の「個」を。今は連なりの「連」を。「個」は自由で負担も少ないです。「連」は合わせるという負担があるものの、温かさ、強みのようなものを感じられます。それぞれの顔を感じることができます。

「個」だけしか知らなければ私は今でも何も考えずにそのまま過ごしていたでしょう。でも私は消防団を通して「連」を知ることができました。思えば、消防団員に誘われた公民館の雪囲いも横のつながり、「連」でした。

私の住む地域も実は「個」を選ぶ方が増え、団員の中では私も若手扱いです。「個」と「連」それぞれを経験した私だから思うのです。こんな時代だからこそ「連」も悪くはないと。だからもし次に入団に興味をもってくれる人が現れた時には、今度は私が制服と靴のサイズを聞き出そうと思います。私がそうしてもらったように。



「きっかけ」

群馬県 前橋市消防団
阿久沢 宏

「35歳までだからさ、入ってもらえないかな。」
当時22歳だった私に向けられた言葉です。前橋市消防団第17分団は、赤城山の裾野に広がる旧宮城村圏域を管轄としています。この圏域では、35歳まで消防団員として務めることが慣例となっていました。この年、地元就職していた私は先輩団員の言葉に入団を決意しました。

それから10年が経ちます。私にはひとつ、不安に思っていたことがあります。災害対応のことです。火災出動の経験を積んできた私たちですが、災害の現場に入った事はありません。経験したことがない災害に直面した時、正しい行動が取れるのか不安でした。ではどうすれば良いのか、今何をすべきなのか。その答えが分かりませんでした。

昨年、防災士養成講座に消防団員の枠で参加できるという話を聞いた時、そこで答えが見つかるかも知れないと思い参加を希望しました。始めに学んだのは、防災士の基本理念である3つの言葉です。「自助・共助・協同」。防災士の役割は「共助」の説明を読むと分かります。「地域防災力を高めるため、地域住民は協力して防災の啓発に努め、災害時には協力して救助・応急活動を実施する。防災士は、その活動の中核となることが期待される。」んん？私はこれとニュアンスの近い言葉を聞いたことがあります。「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」。防災士と消防団、どちらも地域防災力向上のため中核となる役割を担っている、そのことに気づき、ここに答えがあると確信しました。

災害の規模が大きくなるほど、公的支援の機能は衰退し公的救助は期待できなくなります。その



ため重要とされるのが「共助」「地域の防災力」です。阪神・淡路大震災では生き埋めになった約3万5千人の内、8割が近隣住民によって助け出されました。

地域の防災力が上手く機能した災害事例があります。長野県神城断層地震です。夜間に発生した地震により40棟以上の家屋が全壊し、高齢者・幼児らが生き埋めとなりました。住民たちは「災害時住民支え合いマップ」に従い行動します。警察・消防と連携し安否確認、救助活動を行いました。結果、1名の死者も出なかったこの災害は「白馬村の奇跡」と呼ばれています。なぜ、全ての住民を救うことができたのか。住民たちは防災の備えをしていました。「顔の見える」付き合いをしていました。誰が生き埋めになったのか、どの部屋に寝ていたのか、近隣住民には分かっていたといいます。

ここで学んだ大切なこと、消防団がこれから行うべきこと、それは地域住民の防災意識を高めること、共同で防災に取り組むこと。皆さんにとっては、当たり前の話ですよ。私はこの当たり前のことが大事だと気付くのに10年かかりました。だからこそ、もっと皆に知ってほしい、共助のこと、地域の防災力のことを。全ての国民に問いたい。「あなたの街は奇跡を起こせますか。」



これからの消防団承継を 考える時

埼玉県 川越市消防団
齋藤 由香



会社員である私が平成28年に分団長を担うに当たり、団員をお願いしたことがあります「役割分担」・「情報共有」そして「人材育成」に力を入れ、今後の活動に繋げていきたいと伝えました。働く女性が増え、一人一人の限られた時間の中、活動や新たな人員の確保に苦労していたためです。

埼玉県川越市消防団女性消防団員が発足して15年目を迎える今、私達が消防団承継の為にしている事をお話します。

「役割分担」として

各々の負担が偏らないように活動の役割分担を徹底すること。

団員には様々な諸事情が起こるため、ハウレンソウ(報告・連絡・相談)を行い、一人一人の現状を把握する。その上で各自が得意な事で活躍できるよう活動を分担しています。それは長く消防団員を続けていく事につながると考えています。

「情報共有」として

団員全員で活動していくために情報共有すること。SNSも活用し、活動・会議やイベントなどの資料を事前に送り、内容を把握できるようにする。また、議事録等はタイムリーに配信し、参加できなかった団員にも情報を届けています。活動で作成した資料はデータ保存を徹底。情報を共有し、検討や意見交換を行い、女性消防団員ならではの、自分たちの活動を作りあげています。

今最も必要と考える「人材育成」として

団員が自分の持っている知識を活かして研修を行い、お互いのスキルアップを図っています。また諸事情により離れていたOGに再入団してもらいました。

彼女達は即戦力となり、過去の経験も生かし団員を導い

てくれて全体が活性化されています。

平成25年全国女性消防団員活性化ぎふ大会で「女性消防団活動の足跡と絆」で発表したPDCA(計画・実行・検討・対策)を実行に移しています。

昨年開催された地域の女性消防団員研修会では、体験型バルーンアート研修を行い約150人の参加者は笑顔で地元に戻って行きました。各地域の消防団で啓発活動に活かしているとの嬉しい報告もきています。

川越市消防団では子供たちへの防火教室や、団員募集での集客に研修の成果を取り入れ始めています。

この研修で協力して頂いた講師、そして活動報告に使用した川越オリジナル紙芝居の絵を画いて下さったのは川越市民です。

このように多くの人々で協力し、しっかりと計画をたて役割を分け活動していくことで、限られた時間の中で成果を上げ、消防団活動が円滑になり、さらに幅が広がって行くと実感しました。

そして今年新企画として乳児小児を対象とした「パパママ向け応急手当講習会」を行いました。この企画は女性ならではの活動としてつなげていきたいと考えています。

一人の力では出来ない事も、団員皆が情報を共有し役割を持ち得意な事を持ち寄り、楽しく活動していくこと。そしてやりがいを追及していくことが、今後の消防団の発展につながっていくと考えています。これからどう活動を膨らませていくのか楽しみです。そして全てを承継し、繋がっていった欲しいと願っています。

近年全国で様々な災害に見舞われている中、私達女性消防団員が出来る事をこれからも追求し、切磋琢磨しながら消防団活動を承継していく事に力を注いでいきたい。そのために、今全力投球。



命を守る ～その思いを広げるために～

岐阜県 中津川市消防団
黄地 いづみ



私は保育士をしながら中津川市消防団女性消防隊に所属しています。

私は昨年7月から市内に掲示され、私もモデルの1人を務めた団員募集のPRポスターがきっかけで、「先生は火を消す人なの？」と園児から言われることや、「すごいですね！でも、私にはできん！」と保護者の方に声をかけられることがあります。

保護者の方の「私にはできん！」という言葉に対し、「なぜできないんだろう」と疑問を感じました。

私達は平成27年に結団し、現在25名です。

活動内容は主に、規律訓練、応急手当講習、地域行事への協力や団員募集などのPRです。

私達は職業も地域も年齢層も違ってきます。

私も、三年前の入団当初は不安しかありませんでした。

しかし、みんなで意見を出し合い協力して取り組み、人との繋がりを通してやる気や安心へと変わってきました。

昨年、私が一番力を入れて取り組んだ活動は応急手当です。

昨年3月、応急手当普及員を取得。このことは早速、職場で役立ちました。

園児が転倒をし、腕を擦りむき、出血をしてしまったのです。

園児の大きな泣き声に一瞬戸惑いましたが、「これは骨折かもしれない」と思い、止血法や三角巾で固定をしました。

最初はとにかく痛がっていた園児も、固定をされると少し落ち着いてくれました。

利き腕の骨折でとても心配しましたが、今ではみんなと一緒に遊んでいます。

それまでは、救急箱の中身や三角巾の使い方を気にかけない私でしたが、消防団で学んだことを現実に活かしたことが大きな発見と喜びでした。と、同時に、改めて「予防をすること」がまずは大切になるということを実感し、職場の仲間とも話し合うことができました。

また、11月には一緒に普及員になった隊員が実際にAEDを用いて、その場にいた人達との連携プレーでかけがえのない1つの命を救いました。

その方は後遺症もなく、普通の生活に戻れたとのことでした。

それを聞いた時、自分もいざという時にもっと動けるようにしておきたいと強く感じました。

応急手当の方法を1つでも知っているか、いないかでは安心感に大きな違いがあると思います。

今度は応急手当指導員を取得し、まずは保護者の方や職場の同僚に子どもたちに必要となる応急手当を伝えていきたいです。

そして、地域の方や周りの人の「覚えたい」などのニーズに合わせた講習や隙間時間を利用し、気軽に参加してもらえる場をつくっていききたいです。

「私にはできん！」と感じている女性の方は、私に声をかけてくれた保護者の方以外にもたくさんいると思います。

応急手当を通して、私たちが今大切にしている命を守るための方法を伝え、「私も一緒にやってみたい」と一人でも多くの人に思ってもらえるように働きかけていきます。

そして、消防団員として繋がりを広げていきます。家族、地域、全ての人のこれからの安心、安全のために。「私と一緒にやってみませんか？」



歴史と経験から未来へ

奈良県 桜井市消防団 寺林 啓一郎



訓練や災害出動のたびに、「あんた、うちと消防とどっちが大事なん!?」という励ましの言葉を背に受けながら、「ちょっと行ってくる!」これが私のいつもの出動風景となっています。

私は25歳のときに地元の消防団へ入団し、昨年4月に副団長の職を拝命しました。入団のきっかけは、学生時代にスポーツをしていたことや伯父が同じ消防団に在籍していたこともありますが、一番の理由はポンプ車操法大会の選手として勧誘されての入団でした。また、祖父と伯父が消防団員であったため、私も成人すれば入団するものと漠然と思っていました。その時にはこんなに長く、ましてや副団長という職に就くなんてことは想像もしていませんでした。現在は団長・先輩副団長の方々を見習いながら、火災や災害時の活動、訓練の指導に取り組んでいます。

私が暮らしております桜井市は、奈良県の北西部に位置し、邪馬台国の有力候補地とされる歴史ロマンあふれる街です。その他にも、日本最古の神社と言われている大神神社、春は牡丹、秋は紅葉が美しい長谷寺、藤原鎌足をまつる談山神社等、多くの文化財をはじめ、貴重な歴史文化遺産があります。市街の中心部は奈良盆地にある一方、60%が山間地域となっており、台風が接近するときには、河川の氾濫と土砂災害の両方に注意を払わねばなりません。

そのため消防団では毎年、神社・仏閣における行事の警備や、文化財防火訓練を行っています。私は今年初めてこれらの行事に出動しましたが、夏は暑い中での火元の警戒、冬は池に氷の張るような寒さの中での放水訓練と、過酷な環境の中、出動する他の分団の仲間たちには頭が下がる思いです。私が入団した頃は、「なんで火事以外にもこんなに出勤せんとあかんねん!」と思うこともありましたが、今、副団長として後進を指導し育てる立場から考えると、山間地域

と市街地、それぞれで注意すべきことや、他の分団との連携など、それらは全て重要な訓練であると気づかされました。長い間受け継がれてきた伝統にはそれぞれに意味があり、現代まで続いているのです。若い団員達にはすぐに理解できないと思いますが、様々な経験を積むことによって、このように考えられるようになってくれるものと思っています。そのためにも、私がこの歴史を伝えていかなければならないと責任を感じています。

わが桜井市では、昭和30年7月に、後に「桜井大火」と呼ばれる大きな火災がありました。そのときの火は、約50km離れた大阪からも見えたそうで、8万㎡を焼き207戸861人がり災したと伝えられています。これは私が生まれる以前のことで、現在では当時の状況を知っておられる方は少なくなりましたが、当時を知る先輩団員の話では、猛暑による水不足に加え、台風の接近による強風にあおられ、消火活動が満足に出来なかったということで、当時の凄惨さが目に浮かぶようでした。この火災を機に、消防水利の整備や道路の拡幅が行われたと聞いております。私はこのことを今後若い団員達に伝えていくことも、自分の職務だと考えています。水利の確保や地域の把握など、過去の経験から得た教訓が、有事の際の貴重な情報となり、また団員の士気高揚や地域住民の防災意識の向上につながるよう努力していきたいと思っています。

副団長となり、歴史や経験から知り、学び、感じたことを、未来を担う団員に伝えることこそが、私の責務であると考えています。新米副団長であり、まだまだ未熟ではありますが、そのような存在になれるように、これからも頑張りたいと思います。

最後になりましたが、小言を言いつつも、いつも支えてくれる家族に一言…「いつもありがと——!! ちょっと行ってくるわ——!!」



経験をつなげる

和歌山県 那智勝浦町消防団 貝岐 直哉



私の住む那智勝浦町は、和歌山県の南東部に位置する風光明媚な景観と山の緑、海の青に恵まれた小さな町です。

私は、21歳の時に家業を手伝うため自衛官を退職し帰郷しました。

父親が消防団員であることや消防団車庫が家の隣にあるため消防団は身近なものでした。また、火災のサイレンが鳴ると、すごい速さで集まって出動する消防団員と消防車に驚きと憧れがあり、29歳の時に即応予備自衛官を辞めたのを機に那智勝浦町消防団に入団しました。

消防団に入団する前は、火災時の消火活動と有事の際に備えるための訓練が消防団の活動だと思っていました。

しかし、入団すると、那智勝浦町には世界遺産である熊野古道や那智大社等があり、宿泊施設も多い観光地なので、消防団の活動も文化財の防火から熊野古道での行方不明者の搜索、大雨警戒、花火大会の警備と多岐にわたり活動していることを知りました。

特に大雨の警戒、避難誘導活動は平成23年9月の紀伊半島大水害で29人の犠牲者を出した那智勝浦町では重要な活動であり、早めの避難を促すため、役場、消防、自主防災組織との連携は、災害前とは大きく変わりました。

この災害の経験から、早めの避難の重要性と、大きな台風や大雨が予想されるときには、住民の避難誘導、警戒情報を広報して巡回しています。また、河川の警戒地点を番号でリスト化し共有することで、増水状況をスムーズに伝達できるようになりました。

紀伊半島大水害後、毎年行われている土砂災害避

難訓練のときには、地元分団として参加し、後輩団員に対して災害時の活動経験から、危険な場所や苦勞したことなどを伝えています。

次に、最も感銘を受けた消火活動に、平成26年6月の熊野古道付近で発生した建物火災があります。現場は、隣接する住宅はないものの、周囲は畑や立木に囲まれているため、消防車両は進入できず、公設の消防水利等もない場所で、唯一水利として使用できる用水路にも水が流れていませんでした。

また、半径百メートル以内に世界遺産である大門坂があります。到着時には出火建物全体が炎に包まれ、そのほとんどが倒壊している状態で、建物の消火より延焼防止を優先しようにも水利がない、その時、分団長たちが動きました。

現場から数百メートル離れた河川に可搬ポンプを部署、道路の下を通っている水路を利用することで、現場付近の用水路まで送水し、それを堰き止めることで水利の確保が可能になり、延焼を阻止するべく消火活動にあたりました。

この機転の利いた活動も、先輩たちのこれまで積み重ねてきた経験と、地元の地形を熟知しているからこそできたことであり、この時、先輩たちの経験を受け継がなければいけないと感じました。また、先輩たちから、火災時や熊野古道での搜索時などの経験を聞いて、少しでも役に立てるようにしています。

このようにして、今後、先輩たちから受け継いだ経験を後輩につなげていき、火災発生時には被害を最小限に抑えられるよう、また、私の経験が少しでも役に立てるように消防団活動を続けていきたいです。



「つながり」

広島県 廿日市市消防団 村田 千晴

みなさんの消防団に入ったきっかけはなんですか？

これまで消防団の諸先輩方の話を伺うと、父親が消防団員であったなど、幼いころから消防団員が身近な方が多いように思います。

しかし、私にとって消防団は身近なものではなく、どちらかと言えば遠い存在、自分の生涯に関わることのない世界であろうと考えていました。

そんな私が消防団活動に携わるきっかけとなったのは、当時、自分が住む広島県の大野町で町長していた方からの勧めでした。

女性消防団員がまだ珍しかった平成16年、消防団の活動範囲を広げるため、女性消防団員の入団を可能とし、顔見知りであった私に声をかけていただいた事が始まりです。

当初は、他の消防団員とは違い、各分団に所属するのではなく、団長などと同じように「本部付」の消防団員として活動をしていました。

その業務の多くは、式典のお手伝いや広報活動といったものでした。

その後、平成17年の市町村合併により、本部付ではなく、分団所属の消防団員と変更になりました。その為、男性団員の分団の中に女性1人という形になりました。

始めは、「女が分団に入るんとお」、「どうせ、すぐ辞めるじゃろお」などと、同じ分団の男性団員にささやかれていました。

でも、この性格のせいか、今では“おばさん”ではなく、性別と飛び越え、“おじさん”と言われたり、影の分団長と呼ばれています。

分団所属になってからは、地域の方との交流が増え、「おう、消防頑張つとるのぉ」などと、近所の方が声をかけてくれるようになりました。

私の住む廿日市市では、平成26年に消防団女性隊を編成しました。私は地元の分団にも所属しているため、女性隊と2足のわらじみたいな形になりました。当初は16人で始まり、現在では、機能別消防団員である学生隊も含め、39人まで大きくなりました。

集まると、年齢もバラバラなので、話もまとまりにくく、脱線ばかりしているので、女性隊隊長としてまとめることに、少しだけ苦勞を感じています。

このような団員生活を送ってきた中、昨年7月、平成最悪の水害と



いわれる「平成30年7月豪雨災害」が発生し、西日本を中心に多くの被害がでました。

広島県でも多くの方が亡くなり、今も避難所暮らしをされている方がいます。

私の住むまちは奇跡的に被害が少なかったため、被害が大きかった、広島市に隣接する坂町に我々女性隊は避難所運営の協力に出動しました。私たちは、避難所での活動は初めてのことでした。

そこでの活動は、主に避難所の掃除、物資の整理などでした。きれいに掃除をしても、次の日にはまた外の土砂などが上がっての繰り返しでした。

私たちの市だけで毎日行くことが難しかったため、県が色々な市の女性団員の協力要請をしてくれました。

私たちの市とA市が同じ日に行き、避難所での流れ、注意点などを教え、次の日にはA市とB市が。次はB市とC市がと、初めて行く市には、行ったことのある市と一緒に活動を行っていき、流れなどを教えていくバトン形式の様なかたちがとられる様になりました。

自分たちの市に被害があって来られないところは、電話やメールなどで色々な事を教えてくれました。

その為、私たちだけでは気付かなかったことなどがたくさんあり、最後の方は、もっといいやり方などを私たちが他の市に教わりました。

あと私は、東京幹部候補研修にも出席させて頂いた事があるので、他県の女性消防団員とも交流があります。その為、多くの方から応援メッセージなども頂きました。

今回の災害を経験し、私は女性消防団員の必要性和横とのつながりを再認識しました。

災害は、起こらないことが一番ですが、万が一起こった場合に、女性消防団員は何が出来るか、何をすべきか、そういったことを常に考え訓練し、消防団に入ったおかげで知り合えた、「人と人とのつながり」「地域と地域のつながり」を大切にしながら、活動していこうと思います。

ご清聴、ありがとうございました。



消防団の誇りと職責

沖縄県 中城北中城消防組合消防団
比嘉 竜己



私は「元」警察官です。現在は職を移り、市町村の行政職員として勤務しており、日々、住民サービスの向上・福祉の充実など様々な業務に取り組み、充実感・達成感を得ることができます。

ただ、個人の生命・身体を守るという警察官ならではの仕事が目の前からなくなってしまったことは、少し寂しく感じていました。そんな私に青天のへきれきが訪れます。上司からの一言。「君は元警察官で、機動隊員だったのだから、消防団に入ってはどうか。」と言われ、その場で消防団長へ連絡が入り、面接の日が決まりました。

周りから見れば、パワハラじゃないかと冗談を言う人もいましたが、私の内心は戸惑いよりも「自分にも何かできることがあるかもしれない。」という希望の方が大きかったのを覚えています。

そして入団への運びとなったものの、私は消防団について、聞いたことがあってもどのような人達がどのような活動をしているのかは全くと言っていいほど知識はなく、消防職員の手伝いをするボランティアのようなイメージを持っていました。

いざ訓練初日。「集まれ。」の号令で集合する消防団員。目の前には面接の時とは違い眼光鋭い消防団長。次の瞬間、「気を付け！」

消防本部庁舎に気迫あふれる号令が響き、「ザッ」と節度ある動きで気を付けの姿勢をとる消防団員を目の当たりにし、全身に鳥肌がたちました。続けて見学した消防操法訓練では、気力・体力にあふれ、迅速確実かつ節度よく活動する団員を見て、心底ほれほれました。「私もあのようにになりたい。」全く知らなかった消防団が一気に憧れの存在になったのです。

とはいえ、警察官として10年あまり勤めていた私。礼式訓練や警備訓練を積んできている自負心もあって、「大抵のことは大丈夫だろう。」そうタカをくくっていました。

しかし、実際に消防操法訓練が始まると「節度がない！」「手は腰！」「動きを合わせろ！」両手の指では数えきれない指摘を受け、私の伸びた鼻はすぐさまたき折られたのです。それからというもの、先輩団員の動きについていくためにひたすら消防操法を反復訓練し、携帯の動画サイトで県外の消防操法大会を見て研究、大会に向けて一生懸命に取り組みました。そして臨んだ消防操法大会では、初めての大会の雰囲気のにまれ緊張で固まった私のミスで先輩団員の足を引っ張ってしまい、残念な結果となってしまいました。

こうして入団から事前訓練、消防操法大会という団の一年の節目を経験してみると、消防団に対する認識が全く変わっていました。消防職員の手伝いと考えていた消防団の任務はそんな軽いものではなかったのです。消防団の役割・位置づけについて、総務省のホームページでは各自の職業に就きながらという文言はあるものの、「火災の警報・鎮圧、火災の防除活動を行う機関」とされ、消防行政の第一線を担当する消防職員に対し、その動員力や地域への密着性などの特徴を生かし、ともに連携して消防活動を行うものと明示されているのです。上司にお願いされたからという理由で入団した消防団には地域防災の一端を担う重い職責が課せられていたのです。しかし、私はこれを重責だとは思いません。元々の職業や現在も行政職員であることの影響もありますが、私は消防団のその責務に強い誇りを感じます。いわゆる「消防士」は誰から見ても格好よく、子供たちの憧れであり、社会から期待されています。消防職員と比べれば知識も能力も全然乏しいですが、消防団の任務を達成するために平常時・非常時を問わず地域に密着し、住民の「安全・安心」を守る地域防災の担い手として、今感じている強い誇りと使命感を忘れることなく、一人前の消防団員になれるよう日々精進していきます。ご静聴ありがとうございました。

平成30年度 全国消防団員意見発表会 審査員紹介

審査員長を除き五十音順、敬称略

審査員長 日本商工会議所 総務部長
山内 清行

審査員 フリーアナウンサー、第28次消防審議会委員
青山 佳世

松山市消防団部長、消防庁消防団等充実強化アドバイザー
石丸 ちえみ

プロレスラー、消防応援団、(一社)ニューワールドアワーズスポーツ救命協会代表理事
蝶野 正洋

NHK制作局 第1制作センター 生活・食料番組部長
吉田 卓哉

日本商工会議所 総務部長

山内 清行



先程、審査結果を発表させていただきましたけれども、本当に皆様の発表は素晴らしく、私どもとしましては皆様満点でございました。

私は、日本商工会議所という立場でございますので、地方創生という観点から皆様の発表をお聞きました。人口減少や災害が頻発する中で、地域における消防団の役割は、発表の中にもございましたように、非常に大きくなってきていると実感しております。

皆様の発表のなかで、広報も含めて様々なご意見をいただきました。どういう活動をしているのかわからない中で誘いを受けて消防団に入って、ここまで自主的に活動をしていらっしゃるというのは本当に素晴らしいことだと思います。そのなかで思いましたのは、「個」と「連」、「自助」と「共助」についてです。共助は消防団が行うんだ、という力強いお言葉をいただきましたが、住民の危機意識の醸成を消防団の皆様はすべて任せるとするのは負担が大きく、酷なことです。

これから大きな災害が来るときには、地域の多様な主体である、行政、市民、経済界、医療機関などと消防団が一体となって、それぞれの役割を考えることが、地域防災計画を考えていくうえで大事になると思います。

今の私どもとしまして、認証制度も含め、企業

としてどういう形で消防団に関わっていくかということは課題になっております。認証制度をもっている方は根性もあって地元愛もある、非常に優秀な方です。こうした方々を企業としてもしっかりとサポートし、地域を良くしていきたいと思えます。

また、政府におかれましても、消防団の処遇の改善により、しっかりと役割を担えるように環境整備をお願いしたいと思います。民間としてもしっかりと応援してまいりたいと思えます。

本日は皆様からお話をいただきまして誠にありがとうございました。これからも良い日本を皆様とともに作っていききたいと思います。

本日は誠にありがとうございました。

フリーアナウンサー 第28次消防審議会委員 青山 佳世



審査員を務めさせていただきました、青山佳世でございます。

発表された皆さん、それから、受賞された皆さん、本当にお疲れ様でした。そして、おめでとうございます。

普段から本業と消防団としての活動をされているうえに、本日は意見と内容と発表性、つまりプレゼンテーション力を問われるという大変高度なことを求められていたわけですが、本当に皆さん見事にその役割を果たされておりました。

私は長年、「話す」ことを本業としてまいりましたけれども、いつも時間が来て「10秒前、5、4、3…」となると頭が真っ白になっておりましたのに、皆さんたちは見事にそれをクリアされて、自分の言いたいことを発表されたというのは見事だったと思います。

私はここ何年か審査員を務めさせていただいておりますけれども、毎回、これまで申し上げてきたのは、「お芝居にならないで、ご自分の普段の話し方で話してください」ということをお願いしてまいりましたけれども、今年は見事にそれを成し遂げていただきまして、それぞれ言いたいことを明確に仰っているのだけれども、自然体であり、個人の個性がよく出ていた発表だったかなと思っています、それも見事でした。

それから内容につきましては、私がとやかく申し上げるような立場ではなく本当に僭越なのですけれども、消防団のリーダー、あるいは入って何年かという方、あるいは大学生の方もいらっしゃいましたけれども、それぞれの立場に応じた意見発表で、全て満点だったのです。多分、この後も点数つけるのに苦労されたという意見が相次ぐと思いますけれども、本当にちょっとしたことの僅差だったということで、皆さん本当に素晴らしかったと思ってください。

もう一つ今年、感じたのは、今回参加の方が、会社勤めの方とか、企業家の方とか、自治体の方とかが多かったこともありますが、非常に理論的な感じで消防団を受け止めておられるのだと、つまり体力技術で行動することはもちろんなのだけれども、もっと大きな目で、「消防団とは何ぞや」とか「自分のやっていることは何ぞや」と見ておられたなど、感心しながら聞いておりました。ひとつ、私のように活動に入りきれない人間の気持ちとしてお願いしたいのですが、消防団の担う役割が益々高度化し、重要な位置付けになっていることをアピールするとともに、一方では、一般の人に敷居を低くして身近に入りやすくする工夫を続けてほしいものだと思います。きっと日常のレベルではそういう工夫をしておられ言わずもがなかと

はと思いますが、これからできるだけ多くの人たちが防災とか火災とか救助とか、そういうことを身に着け、できるだけ大勢の方たちに関わっていただかなければいけないので、敷居は低くしながら高度な活動を目指していくことを心掛けていただいたら嬉しいなと思いました。

最近は大きな災害が立て続いている、消防団員の皆様の命にかかわるような現実も増えてきましたけれども、でも、自分の身は第一に守りながら、一人でも多くの住民の皆さんが安心して暮らせるように、これからもぜひ活動を続けていただきたいと思います。

本日は本当におめでとうございます。お疲れ様でした。ありがとうございました。

松山市消防団部長
消防庁消防団等充実強化アドバイザー
石丸 ちえみ



皆様お疲れ様でした。

私も消防団員ですので、消防団員の立場で今日の意見発表を聞かせていただきました。

皆さん住むところが違うので活動内容も違うと思います。

そんななかでも皆さん一人ひとり、しっかりと自分をもって、様々な意見をもって取り組まれているということに、同じ消防団員として感動しました。

全国にこれだけ色々な考え方をを持った仲間がいるということは、私個人としましても、今後の活動にとっても役立つなと思いました。

今日、松山市から団長と一緒に来ましたが、意見発表会ではきっと素晴らしい発表が聞けるだろうけれども、自分たちの消防団の中でその意見を貫いて、さらに活動を広げるということは本当に難しいことだろう、という話をしていました。

ご自分が発表された熱い思いをこれからも持ち続けていただいて、それを自分の消防団のなかに広げていただいて、一人でも熱い気持ちを持った仲間を増やしていただきたいなと思います。

そういうものを私たちも自分の消防団活動に取り入れて頑張っていきたいな、と思いました。

今日は本当に素晴らしい発表の数々、聞かせていただきました。次世代に繋げていきたいとか、子

どもたちの教育、それらは本当に大事なことだなと思いますので、私も松山に持ち帰りまして色々考えたいと思いました。

今日は本当に素晴らしい発表、ありがとうございました。

審査員講評

プロレスラー

消防応援団

(一社)ニューワールドアワーズスポーツ
救命協会代表理事

蝶野 正洋



プロレスラーの蝶野正洋です。

最近の得意技はピンタです(笑)。

この意見発表会に審査員として5回、出席させていただいています。

総括から行くと、今年は素晴らしい発表会だったと思います。

ここ何年は女性団員の方の意見発表が建設的で非常に素晴らしいなという印象があって、逆に男性側が少し消極的ではないかという思いがありました。

今回は男性の方が二名受賞されましたが、全体的に素晴らしい内容で、評価をどこで分けるのかと言えば表現力ぐらいしか無いのではないかと、いうほどに皆さんが「こうあるべきだ」という意見をたくさん持っておられました。

そのなかでも、今回は、広報であったり、周囲の皆さんに広めていくという意見が目立っていたように思います。

おそらくこれは、秋本会長たちが女性団員に力を入れていくということで、ここ2、3年、女性団員が救急救命の啓発など広報活動を中心に動きだしていることが男性に刺激になったのではないかと思います。

地域によって防災のあり方が違うということを改めて聞き、対応にあたる団員の皆さんは大変な

務めだなと思いました。

自分が今、関わっているのは、消防団の皆さんをいかに認識してもらうか、という思いからイベント等でご紹介させて頂いています。減災は最終的には自助が重要ということで、それをどう実行するのかについて今日、若い男性の方たちからも意見がたくさん出ました。キャリアごとに考えることが示されて非常に充実した内容だったなと思いました。

これからも一市民として消防団という歴史ある、誇りある組織を応援していきたいと思います。

皆さん頑張ってください。

どうもご苦労様です。

審査員講評

NHK制作局
第1制作センター 生活・食料番組部長
吉田 卓哉



私、NHKの生活・食料番組部というところの部長をやっております。

ちょっと番組名だけ最初にお話しさせていただきます。

朝の情報番組の「あさイチ」という帯の番組と、お昼の「旬感☆ゴトーチ！」という中継をする番組をやっています。それと、夜は「所さん！大変ですよ」という番組ですとか「うまいッ！」とか「サラメシ」とか、地域情報ですとか食べ物・情報系を主に扱うような部署の部長でございます。

今日初めてこのような場に来させていただきまして、各地域で様々な課題や問題、そして、それにどう向き合おうとされているのか、年齢や立ち位置等、様々な立場でのお話を聞かせていただきまして非常に楽しかったです。

NHKというのは地域放送をやっている関係上、災害等で消防団の方々と一緒に撮影やロケをさせていただくことが多いのですが、私自身も雲仙普賢岳の撮影をしました。阪神淡路大震災もちろん行きましたし、新潟県中越地震も、関わりました。プロデューサーになってから東日本大震災を放送しましたが、災害現場にずっと行っていて感じたのは、消防団の力が強いところが、いかに復興が早いかということは常々感じておりました。ですから、今日、消防団の皆様がそれぞれの地域で

どのような活動をされているかが分かりまして、昔、お世話になっていた方々の顔などを思い出していたところであります。

我々マスコミの役割というのも問われているとも思っていて、やはり、マスコミは、「苦しい」とか「大変だ」ということを取材することがやや多くなってしまうわけですが、今後は、消防団って実はカッコいい、という方向の取材ですとか、地域にこのような人たちがいるのだよ、という取材等もやっていく必要がある、そういう時期に来ているのだということをあらためて思いました。

今日は皆様の話を伺って、示唆に富んだ話ばかりだったので、とても楽しかったです。

どうもありがとうございました。

平成30年度 表彰式等

消防団等地域活動表彰式
防災功労者消防庁長官表彰式
消防庁消防団協力事業所表示証交付式

日程 平成31年2月10日(日)

会場 ホテルルポール麹町 2階ロイヤルクリスタル

来賓祝辞

公益財団法人日本消防協会 会長 秋本 敏文



ご紹介いただきました日本消防協会会長、また、日本防火・防災協会会長をさせていただいております、秋本でございます。

今日、表彰をお受けになる方々は、それぞれのお立場で、今日まで大変なご苦勞がおありだったと思うのですけれども、今日、このことが認められて、表彰をお受けになるということ、本当におめでとうございます。そして、これまでのご苦勞に心から感謝申し上げさせていただきます。

先程まで消防団員の方々の意見発表がございましたが、その内容はいずれも、それぞれの皆様方の日頃の地域のなかでのご活動がどのように行われているかがよくわかり、消防団とはかくあるべきか、ということまで考えさせられまして、私どももありがたく思いました。特に地域のなかの結びつきに対する意識が非常に強くなっていると実感されまして、これはこれからのためにも大変大事であると思います。

明治時代に全国に消防組、今の消防団が作られ、そして昭和40年代・50年代に常備化が進んで常備消防が全国に置かれるようになった時代を経て、今は全国に消防署と消防団があるのですが、これは、世界中、ほかにございません。日本だけです。この日本がさらに、消防機関だけでなく地域の皆さんと一緒に守っていきこうという体制に入ってきています。

日本の消防の歴史のなかでは、ちょっと大げさかもしれませんが、第三の時代に今、入ってきている、そのことが今日、皆様の発表を聞いていても実感できるような気がしています。これからもこういう方向でご尽力いただきましたらありがたいと思います。また、これから日頃の活動、あるいは災害

時の活動で表彰をお受けになる方々、最近は本当に思いがけない災害が全国各地で発生しておりまして、そのなかで消防団の皆さん、地域の皆さんは大変なご苦勞をなさっているわけですが、そのことが表彰として認められたということ、このことは「おめでとうございます」という言葉だけでは適当でないかな、と思うほどなのですが、これから先もいろいろなことがありうると思いますと、この経験はこれから先、絶対に活かしていかなければならないことだろうと思います。

協力事業所として表彰をお受けになる方々もおられますが、消防団員の7割はお勤めの方でして、お勤め先との関係が大変、大事になっております。消防団に入ること、日頃消防団活動をすること、それは、消防団としてもお勤め先との関係について努力していることに違いは無いのですが、色々な調整が必要になったりしますし、お勤め先のご理解があることが消防団員の確保、地域の体制強化に欠かすことができません。これからもご高配賜りますようお願い申し上げます。

色々なことを申し上げましたが、今日、表彰をお受けになる方々、それぞれのお立場で頑張っていたことに感謝申し上げながらお喜び申し上げます。と同時に、これから先もそれぞれのお立場で地域の安全にご尽力いただきますようお願い申し上げます。そして、そのためには、本日、ご列席の皆様お一人ひとりが益々お元気でいていただかなければなりません。益々のご健勝ご多幸、そしてご活躍をお祈りいたしまして、祝辞とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

来賓祝辞

全国消防長会 会長 村上 研一



全国消防長会 会長の村上でございます。
平成30年度「全国消防団員意見発表会」、「消防庁消防団等表彰式」及び「消防庁消防団協力事業所表示証交付式」の開催にあたり、一言お祝いを申し上げます。

本日、表彰の栄に浴されますのは、平素より地域防災力の向上に献身的に取り組まれている消防団と事業所、昨年の災害において救助活動等に多大な貢献をなされました消防団の方々です。皆様のご尽力・ご活躍に対し、改めて敬意と感謝を申し上げますとともに、本日の受賞を心よりお喜び申し上げます。

また、先ほど「全国消防団員意見発表会」におきまして、消防団員の皆様が実践されている取り組みや、活動を通じて得られた貴重なご意見を発表されたと伺いました。発表された方々が、各消防団の中心として一層ご活躍されるとともに、発表内容が多く消防団のよき指針となることを期待しています。

さて、昨年を顧みますと、地震や水災など、甚大な被害を及ぼす自然災害が立て続けに発生しました。各地で消防団の方々が土砂の撤去や、避難所の運営支援、巡回による被害状況の把握など、あらゆる活動に従事していただき、大変効果的であったと伺っております。そのご活躍に改めて感謝を申し上げます。

しかし、広島県呉市において、豪雨災害活動にあつて消防団員が犠牲になるなど、多くの尊い人命や貴重な財産が失われました。亡くなられた方々のご冥

福と被災地の一日も早い復興をお祈り申し上げます。

災害から地域の安全、安心を確保するためには、常備消防だけでなく、消防団をはじめ地域が一体となって、地域防災力の向上に努めていくことが大変重要であり、防災リーダーである消防団員の皆様には、その中核として、一層、ご活躍されることをご期待申し上げます。

また、消防団活動の重要性への深いご理解のもと、様々なご支援や、消防団員の確保にご尽力を賜りました事業所の皆様には、重ねて敬意と感謝を申し上げますとともに、引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

今年は、ラグビーワールドカップ2019やG20大阪サミットなど、国際的な大規模行事が多数控えており、万全な災害対応体制の確立には、消防団の皆様をはじめとする地域の皆様のご協力が不可欠です。

全国消防長会といたしましても、各関係機関との連携をより緊密にし、地域住民が安心して暮らせる社会の実現のため、引き続き努力してまいりますので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様方のご健勝とご多幸、そして更なるご活躍をご祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

平成31年2月10日

全国消防長会 会長 村上 研一



平成30年度 消防団等地域活動表彰 消防団表彰 21消防団



〈代表受領 愛知県 安城市消防団〉

都道府県	消防団
岩手県	平泉町消防団
岩手県	普代村消防団
茨城県	東海村消防団
栃木県	野木町消防団
群馬県	沼田市消防団
群馬県	渋川市消防団
埼玉県	越谷市消防団
東京都	国立市消防団
神奈川県	横浜市瀬谷消防団
神奈川県	川崎市多摩消防団
長野県	佐久市消防団

都道府県	消防団
長野県	喬木村消防団
岐阜県	岐阜市南消防団
岐阜県	山県市消防団
静岡県	熱海市消防団
愛知県	一宮市消防団
愛知県	安城市消防団
大阪府	泉大津市消防団
広島県	広島市東消防団
佐賀県	大町町消防団
沖縄県	うるま市消防団



〈消防団等地域活動表彰(消防団表彰)〉



平成30年度 消防団等地域活動表彰 事業所表彰 14事業所



〈代表受領 東京都 株式会社船清〉

都道府県	事業所
北海道	農事組合法人勝山グリーンファーム
栃木県	株式会社栃木県畜産公社
東京都	株式会社船清
神奈川県	生駒植木株式会社
福井県	福井市農業協同組合
長野県	平穏土建株式会社
岐阜県	馬瀬建設株式会社

都道府県	事業所
広島県	谷本建設有限会社
山口県	ジェム力株式会社
徳島県	株式会社群生
愛媛県	イナン電気株式会社
福岡県	株式会社PLUS通信
佐賀県	株式会社トスプロ
長崎県	博多海陸運送株式会社 対馬支店



〈消防団等地域活動表彰(事業所表彰)〉



平成30年度 防災功労者消防庁長官表彰 受賞団体 55消防団



〈代表受領 北海道 鶴川消防団、広島県 坂町消防団〉

都道府県	消防団
北海道	胆振東部消防組合厚真消防団
北海道	胆振東部消防組合鶴川消防団
北海道	胆振東部消防組合穂別消防団
岐阜県	関市消防団
岐阜県	下呂市消防団
京都府	綾部市消防団
岡山県	岡山市消防団
岡山県	総社市消防団
岡山県	高梁市消防団
岡山県	赤磐市消防団
岡山県	浅口市消防団
岡山県	里庄町消防団
岡山県	矢掛町消防団
岡山県	新庄村消防団
岡山県	鏡野町消防団
岡山県	西栗倉村消防団
岡山県	美咲町消防団
広島県	広島市中消防団
広島県	広島市東消防団
広島県	広島市南消防団
広島県	広島市西消防団
広島県	広島市安佐南消防団
広島県	広島市安佐北消防団
広島県	広島市安芸消防団

都道府県	消防団
広島県	広島市佐伯消防団
広島県	呉市消防団
広島県	竹原市消防団
広島県	三原市消防団
広島県	尾道市消防団
広島県	福山市消防団
広島県	府中市消防団
広島県	三次市消防団
広島県	庄原市消防団
広島県	大竹市消防団
広島県	東広島市消防団
広島県	廿日市市消防団
広島県	安芸高田市消防団
広島県	江田島市消防団
広島県	府中町消防団
広島県	海田町消防団
広島県	熊野町消防団
広島県	坂町消防団
広島県	安芸太田町消防団
広島県	北広島町消防団
広島県	大崎上島町消防団
広島県	世羅町消防団
広島県	神石高原町消防団
山口県	周南市消防団

都道府県	消防団
愛媛県	松山市消防団
愛媛県	宇和島市消防団
愛媛県	大洲市消防団
愛媛県	西予市消防団

都道府県	消防団
愛媛県	松野町消防団
福岡県	久留米市消防団
福岡県	大野城市消防団



〈防災功労者消防庁長官表彰〉



平成30年度 消防庁消防団協力事業所表示証交付 33事業所等



〈代表受領 愛媛県 有限会社渡部石材〉

都道府県	事業所等
北海道	株式会社日鋼機械センター
北海道	三協機械建設株式会社
青森県	株式会社藤本建設
岩手県	東北汽船港運株式会社
岩手県	岩手中央農業協同組合
宮城県	株式会社佐々木組
宮城県	協業組合富谷環境
秋田県	株式会社大森土木
群馬県	前橋市農業協同組合
神奈川県	株式会社大津スイミング企画
新潟県	南雲土建株式会社
石川県	白山農業協同組合
石川県	株式会社タキノ工業所
福井県	株式会社若狭松葉
山梨県	南アルプス市農業協同組合
長野県	高木建設株式会社
長野県	株式会社ハタナカ

都道府県	事業所等
岐阜県	株式会社東海技研
岐阜県	KYB金山株式会社
静岡県	有限会社ワタナベ電気防災
静岡県	株式会社下田電化設備工業
愛知県	愛知みなみ農業協同組合
京都府	株式会社日本サルベージサービス
広島県	谷本建設有限会社
山口県	宇部フロンティア大学
徳島県	株式会社群生
愛媛県	株式会社池田水道
愛媛県	有限会社渡部石材
愛媛県	株式会社今治ホンダ
愛媛県	株式会社プロシーズ
福岡県	有限会社古門造園
長崎県	有限会社共栄産業
長崎県	港祐産業有限会社

消防庁消防団協力事業所表示制度

消防庁消防団協力事業所表示制度とは、市町村消防団協力事業所の認定を受けていること、一定数の従業員が消防団員であること等、特に消防団活動に協力している実績が顕著であると認められる事業所等に対し、消防団活動への協力の証として「消防庁消防団協力事業所表示証（ゴールドマーク）」を交付するもの。



〈消防庁消防団協力事業所表示証交付〉

受賞者代表謝辞

広島県 坂町消防団 団長 車地 健二



本日、ここに消防庁長官をはじめ、多くの皆様のご臨席のもと、表彰の栄を賜りましたことは、身に余る光栄と受賞者一同、心より深く感謝申し上げます。

近年は全国各地で大規模な災害が次々に発生しております。

昨年の七月豪雨災害においては、わが町においても自然豊かな町並みが一変し、山々が崩れ土石流となり、河川を埋め尽くし、濁流が町を埋め尽くしました。

災害関連死の方も含め17名もの尊い命とかけがえのない財産を奪い、いまだ1名の方の行方が分かっておりません。そのような中、消防団員は発災前から水防警戒や避難の声かけ、誘導を行い、変わり果てた郷土に戸惑いつつも、県内の各消防団の応援はもとより、全国から集まっていた多くの防災関係機関の方々とともに、連日の猛暑の中を救助、排水作業、土砂撤去、人命検索、土砂崩れの応急対応などに懸命にあたる日々でした。

自らも被災者である団員も消防団員として活動し、地域住民との協力により復旧にあたる姿を目の当たりにし、団長として大変胸が熱くなりました。

町の復旧・復興はまだまだ時間を要しますが、この度の災害を教訓とし、また町のためにご協力いただいた関係者の皆様への感謝を忘れず、今後も

消防団一丸となり訓練を重ね、一層精進して参る所存でございます。

私は代表の一人では有りますが、受賞者の皆さんも同じ気持ちだと思います。

私たち、受賞者一同、本日の受賞を胸に刻み、今後も愛する郷土を守るため、自信と誇りをもって消防使命を達成するべく、今後も邁進することを固く誓い申し上げ、謝辞とさせていただきます。

平成31年2月10日

受賞者代表 広島県 坂町消防団長 車地 健二

平成30年度 消防団等地域活動表彰 受賞団体

消防団表彰 21消防団
事業所表彰 14事業所

掲載内容は、各団体から提供のあった
原稿及び写真等に基づき作成

団員確保に努め、 文化財保護・防災意識の高揚を図る

岩手県
平泉町消防団

平泉町消防団では、平成28年から機能別団員制度を導入するとともに、年1回発行している消防広報ひらいずみで新入団員の紹介や団員募集を行い、団員の確保に努めている。

また、本町は、中尊寺、毛越寺に代表される国宝や重要文化財を数多く抱えており、毎年1月26日の文化財防火デーに近い日曜日には、消防団、消防署、自主防災組織等の地域住民が一体となった文化財防火訓練を行い、防災意識の高揚を図っている。



消防団や自主防災組織等が参加する文化財防火訓練

DATA

人口	7,868人
面積	63.39km ²
団員	定数260人
実数	218人(うち女性3人)

火災防ぎょ訓練を行う消防団員

幼少年への 防火・防災教育活動

岩手県
普代村消防団

消防団特別点検に幼年・少年消防クラブが参加し、初期消火訓練や防火アトラクションを披露している。更に、分列行進にも参加し防火意識の高揚を図る等地域に貢献している。

その他、一般家庭予防査察に少年消防クラブが参加し、消防団等と同行しながら防火チラシの配布、独居老人家庭を中心に防火啓発活動を行っている。この活動を通して、防火防災教育を行い、災害時には自ら主体的に考え判断出来る子どもを養成し、災害に強い村づくりを行っている。



幼年消防クラブが、拍子木を打ちながら「火の用心」と大きな声で行進している様子

DATA

人口	2,796人
面積	69.66km ²
団員	定数165人
実数	145人(うち女性1人)

普代村消防団特別点検で分列行進を行う消防団員

地域防災力向上に向けた 団本部付女性部の新設

茨城県
東海村消防団

東海村消防団は、1本部7分団で組織され、常備消防と連携しながら、火災発生時の後方支援や地震・台風等の被害拡大防止活動に従事するほか、平常時には、月2回の定期巡回や地域行事の警戒巡視などを行う中、平成29年12月に団員の条例定数を10名増員し、団本部付女性部を新設した。女性部は、女性の視点を取り入れながら、村民の防火・防災意識のさらなる高揚に向けて、火災予防運動の広報活動などを実施している。



平成30年度秋季火災予防運動広報活動

女性部研修(北茨城市消防団
女性分団を講師に迎え、活動事
例の学習及び情報交換を実施)

DATA

人口	37,713人
面積	38.00km ²
団員	定数193人
実数	193人(うち女性10人)

女性消防班を設置し、 安全安心のまちづくりをめざす

栃木県
野木町消防団

平成27年度に女性消防班を設置し、団員の条例定数を134名から140名に増員した。主な活動内容は、町内の各幼稚園において防火啓発活動を実施している。女性消防班自ら防火に関する紙芝居を作成し、園児に読み聞かせを行っている。また、町が実施するイベント等においては、火災予防に関する啓発活動を行い、安全安心のまちづくりに貢献している。



紙芝居を用いた火災予防の啓発活動

町イベントでの啓発活動

DATA

人口	25,292人
面積	30.26km ²
団員	定数140人
実数	140人(うち女性6人)

消防団等地域活動表彰〈消防団表彰〉

女性ならではの視点やきめ細やかさを取り入れ、 より地域に密着した消防団を目指す

群馬県
沼田市消防団

消防団の充実強化を図る目的で、平成30年4月より女性消防団員を導入した。現在は救命講習やイベント等で普及啓発活動などを行っている。秋季点検では男性消防団員と連携した放水訓練や部隊訓練を行い、地域防災訓練では備蓄品配布訓練や応急手当訓練に参加するなど、地域防災力の向上と個人のスキルアップに努めているところである。



消防団出初式で防火パレードを行う消防団員

平成30年4月女性消防隊
SOLIEL(ソレイユ)発足

DATA

人口	48,676人
面積	443.46km ²
団員	定数812人
実数	787人(うち女性16人)

地域住民と行う 防災訓練の実施

群馬県
渋川市消防団

市防災計画に基づく防災訓練に毎年参加している。防災訓練では、消火訓練や負傷者の搬送訓練を行い、災害時に迅速な対応ができるように訓練を行っている。

分団の地域における活動としては、自治会が行っている防災訓練に参加し、放水訓練を行っている。この活動は地域住民の消防団に対する認識を高め、入団を促す一助ともなっている。



緊張感を持って訓練を行う消防団員

消防団員等公務災害補償等共済基金の後援のもと消防団員セーフティ・ファーストエイド研修を実施

DATA

人口	78,391人
面積	240.27km ²
団員	定数652人
実数	617人(うち女性2人)

越谷市消防団に「学生機能別団員」を設置！ 一大学との連携が地域と若者をつなぐー

埼玉県
越谷市消防団

越谷市は、消防団員の確保と大規模災害時の対応力を強化することを目的として、平成30年4月、越谷市消防団に学生機能別団員を設置した。市内にある2大学の学生を中心として、27名の学生が埼玉県や2大学と連携・協力し、HUG訓練やDIG訓練をはじめ、救命講習や自主防災組織リーダー養成講座の受講、自衛消防訓練における避難誘導などを行い、消防団に対する地域のニーズに応えられる多様な人材の確保を目指した取組みを進めている。



消防団員に必要な知識と技術を習得するため、基本団員とともに救命講習を受講する様子

越谷市消防団夏季特別訓練において、多くの来場者への紹介を受け、今後の活動への意欲を見せる学生機能別団員

DATA

人口	337,498人
面積	60.24km ²
団員	定数480人
実数	410人(うち女性34人)

災害に強いまちを目指して、 地域で守る、わが郷土

東京都
国立市消防団

応急手当に関する知識と技術の普及に向け、率先して応急手当普及員講習受講と訓練を積み重ね、自治会や町内会の訓練に積極的に参加し、火災予防の普及と地域とのコミュニケーション充実を図っている。

また、地域とともに災害に強いまちづくりを目指し、平成23年に市内在勤者も入団可能に、平成24年に団員確保と入団後の負担軽減を図るため、任期を4年から2年に改訂、平成28年には条例定数2名増の126名とし、女性団員の確保にも努めている。



延焼火災を最小限に食い止めるため、地域住民とともに消火訓練を実施

少しでも多くの命を守るため、一人でも多くの方々に応急手当指導を実施

DATA

人口	75,445人
面積	8.15km ²
団員	定数126人
実数	125人(うち女性7人)

消防団員による 団員募集の意識改革

神奈川県
横浜市瀬谷消防団

瀬谷消防団員主体の『消防団充実・強化の広報戦略検討会議』を開催し、幹部団員だけでなく班員に至るまで団員を増やすという目的意識を共有するための協議を重ねた。区内で開催のイベントや共同住宅居住者へ団員募集、アンケートを積極的に行い、確実な団員確保に結びつけた。

また、団員確保のために消防団長、消防署長連名で協力依頼文を全団員に配布、団員確保の重要性を認識するとともに、団員が友人、知人を積極的に勧誘し、確実な団員入団につなげた。



瀬谷区内最大イベントである『瀬谷フェスティバル』にて積極的に団員募集を実施

DATA

人口	124,560人
面積	17.17km ²
団員	定数310人
実数	310人(うち女性75人)

区内イベントにて消防団員・消防職員一丸となって、団員募集を実施

新たな消防団員の確保対策としての 女性消防団員の入団

神奈川県
川崎市多摩消防団

女性消防団員による消防団の制度や活動等に係る関係規定の勉強会、消防訓練礼式に係る訓練、消火ホースキット取扱い訓練等の実施及び普通救命講習の受講により、消防団員活動に必要な知識及び技術を習得している。また、多摩消防団消防大会及び多摩区消防出初式における消防演技の披露、自主防災訓練時の訓練指導、多摩区民祭における広報活動等の地域に密着した活動により、地域防災力の向上に貢献している。



平成30年10月に生田緑地広場で開催された多摩区民祭にて広報活動を実施

DATA

人口	214,158人
面積	20.39km ²
団員	定数175人
実数	168人(うち女性13人)

平成30年4月に開催された多摩消防団辞令交付式

安心と安全なまちづくり実現に向けて、 地域防災力の要である消防団員確保に向けた取組

長野県
佐久市消防団

平成27年4月1日から機能別団員制度(防火広報団員、学生団員、消防団協力員)を新たに創設。

団員の活動の幅を広げることにより、より多くの方に消防団活動に参加していただき、消防団員を確保するとともに、地域防災力の向上を図った。

学生、女性や消防団OBなど、それぞれが自分たちの特徴を生かした活動を行うことで、消防団に対する理解や広報にも大きく繋がっている。



成人式において新成人に対して行った団員募集広報活動

救命講習において消防職員が務める講師の補助員として指導する学生団員

DATA

人口	99,368人
面積	423.51km ²
団員	定数1,842人
実数	1,813人(うち女性50人)

地域を守る消防団 ～自分たちの地域は自分たちで守る～

長野県
喬木村消防団

団員の確保が年々厳しくなる中、「小学生のころから消防へ親しむことで地元への愛着を育てること、消防を学ぶことで防災意識を高め、生命を守る大切さを身につけること」を目的とし、平成28年12月に喬木村少年少女消防クラブを発足させ、クラブ員20名で活動を開始した。主な活動として、春・秋の火災予防運動における積載車に搭乗しての広報活動、村操法大会での操法見学や放水体験、出初式のパレード参加などを行っている。



防災に対する関心を深めるため、各種イベント等に参加する少年少女消防クラブ

平成28年12月喬木村少年少女消防クラブ設立式での集合写真

DATA

人口	6,310人
面積	66.61km ²
団員	定数180人
実数	170人(うち女性10人)

啓発活動を活かし 次世代への教育を実践

岐阜県
岐阜市南消防団

岐阜市南消防団は、管轄内の少年消防クラブと連携して、毎年実施される春季及び秋季火災予防週間中に、消防車両による火災予防広報（防火パレード）を行うことで、地域住民への啓発と併せて、次世代を担うクラブ員らの防火防災教育を実践し、地域防災力の向上及び消防団員の確保を図っている。



防火パレード出発式の消防団員及び少年消防クラブ員の様子

消防車両による地域住民への啓
発に意気込む少年消防クラブ員

DATA

人口	410,297人
面積	203.60km ²
団員	定数315人
実数	308人(うち女性5人)

社会情勢の変化による 消防団の多様化

岐阜県
山県市消防団

当市消防団では、年間に各種行事（5月消防操法大会、11月機動演習、12月年末夜警、1月消防出初式、2月機器総点検、3月入団式）を実施し、毎月1回、分団ごとに管轄地域の防火広報巡回を実施しています。

また、平成21年より機能別消防団を発足させ、6つの部（北山隊、柿野洞隊、予備隊、女性隊、ラッパ隊、支援隊）として組織し、過疎地域や昼間の団員不足を補うとともに、特化した分野において活躍できる団員を配置しています。（機能別支援隊 H29.4発足）



消防出初式での一斉放水

支援隊発足式(H29.4発足)
支援隊：消防団経験者で平日の昼間の時間帯に市内に在住在勤し、即時に出動可能な団員(災害時のみ出動)

DATA

人口	27,114人
面積	221.98km ²
団員	定数540人
実数	540人(うち女性12人)

支援団員制度による消防力の強化と 地域防災力の向上

静岡県
熱海市消防団

熱海市消防団では課題である消防団員の確保対策として、消防団幹部の発案により、分団長以上の経験のあるOB団員を、幹部改選に伴う任期満了に合わせ、支援団員として採用することを消防団幹部会議に諮り、議決した。経験豊富な支援団員は、消防団員の能力向上だけでなく、地域とのパイプ役となり、更なる地域防災力の向上に大きな役割を果たしている。



熱海市消防本部との合同訓練



自衛隊員による規律訓練

DATA

人口	37,544人
面積	61.78km ²
団員	定数450人
実数	379人(うち女性15人)

消防団PR活動を兼ねて救急イベントでの 応急手当の普及・啓発活動に参加

愛知県
一宮市消防団

例年、市内ショッピングモールで「救急の日」及び「救急医療週間」の救急業務普及啓発運動の一環として行う救急イベントに参加し、市民の方に救急業務に対する正しい理解と認識を深めてもらうとともに、消防団PRブースを設け、消防団の活動を紹介し、消防団への理解と消防団員の確保に繋げる活動を行っている。

そのほか、地域住民又は自主防災組織からの依頼により、地元消防団が防災訓練等に参加して、地域防災力の向上に努めている。



市内のショッピングモールを訪れた方に、消防団員が心肺蘇生法を教えている様子



消防団活動のPRブースを設け、消防団員の確保に繋げている

DATA

人口	380,868人
面積	113.82km ²
団員	定数605人
実数	526人(うち女性6人)

大規模災害に備え消防団員数を増員し、地域防災力を強化

愛知県
安城市消防団

安城市消防団は、大規模災害時の人員確保のため、平成28年4月から機能別団員制度を導入し、3年で90名を機能別団員に任命した。非常時に活動するための救助訓練のほか、防災パネルシアターを通じた防災教育、自主防災訓練における応急手当（応急手当普及員資格者30名）や消防訓練の指導などを行っている。基本団員は、地元企業の自衛消防隊への放水指導を行うなど、地域に密着した活動を行い、地域から愛される消防団を目指して日々活動している。



平成30年度安城市総合防災訓練で未就学児を対象とした防災パネルシアター（地震編）を実施

山崎製パン株式会社安城工場の自衛消防隊と地元分団で連携した放水訓練の様子

DATA

人口	184,140人
面積	86.05km ²
団員	定数495人
実数	494人（うち女性4人）

地域防災力の向上に向けて

大阪府
泉大津市消防団

女性団員を中心に応急手当指導員の資格を習得し、各種イベントや事業所等での救命講習会に積極的に参加し指導している。また、消防職員と共に火災予防運動期間中の街頭防火宣伝や住宅用火災警報器設置状況調査では、設置促進やメンテナンス等の説明と併せ防火指導を実施している。このように消防職員が実施している業務に消防団が参画することで、市民の防火・防災意識の向上に繋がり、地域全体の防災力の向上に大きく貢献している。



救急隊員と女性消防団員が子供向けに救命講習を実施

火災予防運動で消防職員と消防団員が駅前で防火宣伝やティッシュ配布を実施

DATA

人口	75,897人
面積	14.31km ²
団員	定数80人
実数	66人（うち女性15人）

地域と密着した消防団として、 住民とともに災害に強いまちづくりに貢献

広島県
広島市東消防団

広島市東消防団は、地域住民に防災訓練等で消火・濃煙体験など体験型訓練を企画し実施する他、ポンプ操法の展示、AEDを活用した救急処置など地域に密着した消防団活動をアピールしている。

また、幼少期から防災に興味を持ってもらうために火災や土砂災害等を題材にした紙芝居の制作・披露や、住民と地元町内を歩き、危険箇所の点検や避難経路等を確認するなど、住民とともに安全・安心に暮らせる災害に強いまちづくりに貢献している。



多くの住民の激励の中での年末火災予防運動に伴う特別警戒の出動式

地域の防災イベントで、女性消防隊が自主制作した火災や土砂災害の紙芝居を披露

DATA

人口	120,155人
面積	39.42km ²
団員	定数238人
実数	229人(うち女性21人)

女性団員の普通救命講習等受講による スキルアップ

佐賀県
大町町消防団

平成25年4月に設立した消防団女性部は、平時からの防火防災意識の普及啓発をはじめ普通救命講習等を受講し、有事に備えるなど女性消防団員ならではのきめ細かさでやさしさと思いやりに配慮した活動を実施している。特に、地域の防災訓練等では応急手当の普及・指導を行っている。また、町内防火パレードでは先頭に立って防火を呼びかけ、防火防災意識の醸成のみならず消防団のイメージアップに貢献している。



夏季訓練時に普通救命講習を受講中の女性消防団員

佐賀県女性消防団活性化セミナー終了後、展示コーナーで自分たちの展示物を手に取った集合写真

DATA

人口	6,777人
面積	11.50km ²
団員	定数230人
実数	214人(うち女性16人)

地域に密着した 消防団活動の取り組みについて

沖縄県
うるま市消防団

うるま市消防団では、将来に向けた消防・防災体制を構築する目的として、県内で先駆けて、機能別団員（水上バイク隊・手話通訳隊）を発足しました。機能別団員は市内の水域で発生した水難事故の後方支援活動や災害時等に視覚障害者が被災した際の手話通訳者として対応します。また、女性消防団員を応急手当普及員として育成し、自主防災組織への応急手当講習会の開催や、救急フェア等のイベントで応急手当の受講促進のPRを行い、普及率の向上に多いに貢献している。



うるま市消防団機能別団員入団式を開催

大型ショッピングモールで開催された救急フェアにおいて、女性消防団員による応急手当普及啓発活動を実施

DATA

人口	118,898人
面積	87.2km ²
団員	定数137人
実数	111人(うち女性25人)

農事組合が地域の安心・安全を守るため 消防団活動に貢献

北海道
農事組合法人勝山グリーンファーム

当事業所は、平成27年10月に大規模な農地集積による13戸の畑作農家が農業経営の安定化を目指して法人設立。従業員17名のうち9名が置戸消防団に在籍し活動している。設立当初より地域防災における消防団の重要性を深く認識し、災害出動などの緊急時に対する従業員の出動体制を構築しており、勤務時間中の定例訓練出動や研修会等の各種消防団活動には優先的に参加できるよう社内環境を整えるなど理解が深く、地域防災力の向上に大きく貢献している。



平成31年置戸消防団消防出初式での分列行進(当該事業所に9名が在籍する勝山分団)

DATA

所在地	北海道常呂郡置戸町
人口	3,092人
面積	527.27km ²
業種	農業
従業員	17人
うち団員	9人
置戸消防団	9人(うち女性0人)

地域の安全・安心に 大きく貢献

栃木県
株式会社栃木県畜産公社

企業全体での取り組みとして地域社会への貢献を重要な役割としており、そのような中、消防団活動に対する重要性や役割について十分な理解をしめすとともに従業員の消防団活動について積極的に配慮がなされている。

また、消防団活動をしやすい環境整備など積極的に取り組んでおり、副団長といった幹部団員が勤務するなど、より幅の広い団員活動への支援や、地域密着型の企業として防災活動や奉仕活動など、地域の安全・安心に大きく貢献している。



消防団員の社員集合写真



建築中の新施設

DATA

所在地	栃木県宇都宮市
人口	518,594人
面積	416.85km ²
業種	食肉卸売業・と畜業
従業員	87人
うち団員	10人
宇都宮市消防団	6人(うち女性0人)
下野市消防団	2人(うち女性0人)
日光市消防団	1名(うち女性0人)
塩谷町消防団	1名(うち女性0人)

地域の安全安心のため 積極的に消防団活動に協力する事業所

東京都
株式会社船清

震災等の災害時における消防団員の重要性を特に深く理解し、65名の従業員の内、代表取締役を含む21名が消防団に入団し、入団促進に積極的に取り組んでいる。救命講習の資格取得を推進し18名の団員が上級救命講習を修了している。消防団活動では、会社所有の船舶を消防団活動に活用し桜花期の目黒川での警戒活動や、船舶に可搬ポンプを積載し、船舶からの消火活動訓練や震災時を想定した陸上の消防団との遠距離送水訓練を実施するなど、消防団の活動能力の向上及び地域の安全安心に大きく寄与している。



会社所有の船舶を活用した船上からの消火活動訓練を実施



DATA

所在地	東京都品川区
人口	136,049人
面積	8.17km ²
業種	サービス業
従業員	65人
うち団員	21人
品川消防団	21人(うち女性1人)

他人の幸福が自分の幸福になる ～地域防災に貢献

神奈川県
生駒植木株式会社

当事業所は、「利他即自利」の理念のもと、広く社会に貢献することを社訓とし、消防団の重要性を深く理解し、入団意欲のある従業員が入団しやすいように職場環境を整備し、休暇取得を容認するとともに、消防団活動に従事することによる事業への影響を最小限にとどめるため、社員一丸となって業務調整をする慣習が定着している。

防災に関する意識も高く、毎年横浜市災害協力事業者名簿に記載されており、災害発生時には所有車両や資機材を提供し、また風水害時には自発的に地域を巡回し、倒木の除去や降雪時の道路、消火栓の確保等を行い地域住民から非常に信頼されている。



地域の小学校児童に対する防災授業の様子



DATA

所在地	神奈川県横浜市
人口	275,283人
面積	35.79km ²
業種	造園業
従業員	31人
うち団員	5人
横浜市戸塚消防団	4人(うち女性1人)
横浜市泉消防団	1人(うち女性0人)

消防団活動を支援し、 地域防災力向上に貢献します

福井県
福井市農業協同組合

当事業所の従業員のうち、18名が福井市消防団に在籍している。万が一、勤務時間中において災害が発生した場合には、消防団員が迅速に出場できるように配慮しており、消防団活動に深い理解と積極的な協力を行うことで、地域社会の安全・安心の確保に大きく寄与している。

また、平成21年5月から福井市消防団協力事業所として認定されており、長期にわたって消防団活動に貢献している。



福井市消防団協力事業所として消防団活動に協力している

DATA

所在地	福井県福井市
人口	265,904人
面積	536.41km ²
業種	農業協同組合
従業員	374人
うち団員	18人
福井市消防団	18人(うち女性0人)

地域密着、 地域防災に貢献

長野県
平穩土建株式会社

従業員の消防団活動に対し深い理解を示し、就業規則とは別に「消防団への援助に関する規定」を定め災害発生時には消防団員を派遣できるよう配慮、会社全体でサポートする体制が整っている。

消防団幹部も多数輩出し、幹部歴任後、機能別団員として消防団活動を行う社員も在籍するなど、町消防団組織においても関わりが深い事業所である。

業種を生かし大雪時には、消防施設の除雪作業を早期に実施し、地域防災に大きく貢献している。



出初式で式辞を述べる消防団幹部の当社社員

DATA

所在地	長野県山ノ内町
人口	12,429人
面積	265.90km ²
業種	建設業
従業員	33人
うち団員	5人
山ノ内町消防団	3人(うち女性0人)
飯綱町消防団	1人(うち女性0人)
木島平村消防団	1人(うち女性0人)

自然にやさしく！人にやさしく！ 地域の人々の安心と安全に貢献する会社

岐阜県
馬瀬建設株式会社

各地域における消防団行事及び災害時における消防団活動に深い理解を示し、積極的に消防団員を出動させ消防団活動に協力している。災害等の発生時においては、就業中の消防団員を特別休暇扱いで出動させるなど、消防団員が活動し易い職場環境を整え、地域に根ざした活動を支援し、地域防災に貢献している。また、過疎化が進み少子高齢化の中、団員確保に積極的に取り組んでいる。

建設業という職種から、災害が発生した際に、災害復旧活動及び事業所の資機材等を消防団に提供し協力体制を構築している。



災害発生時の人命救助、作業現場での不測の事態に備えることを目的とし、定期的に救命講習を実施している



DATA

所在地	岐阜県下呂市
人口	33,585人
面積	851.21km ²
業種	建設業
従業員	49人
うち団員	14人
下呂市消防団	14人(うち女性0人)

会社全体で地域防災に貢献 「島を守る従業員団員」

広島県
谷本建設有限会社

当事業所は、広島県三原市の佐木島という離島にあり、従業員6名のうち事務員1名を除く5名が消防団員である。離島の特異性から常備消防もなく、水火災のみならず救急支援や救助活動も行う。昨年西日本を襲った豪雨時には、「従業員消防団員」の強みを発揮し、早期に重機や資機材を投入し、昼夜を問わず活動した。就業時間中でも、消防団活動を積極的に行い地域貢献するのは通例である。これからも地域防災力を担う消防団員として、地元企業として地域の安心安全に貢献する。



平成30年7月豪雨の際に、孤立解消のためダンプとホイールローダーで土砂除去を行う



DATA

所在地	広島県三原市
人口	96,194人
面積	471.55km ²
業種	建設業
従業員	6人
うち団員	5人
三原市消防団	5人(うち女性0人)

地域を守る活動を支援する企業でありたい。 山口県萩市 ジェムカ株式会社

山口県
ジェムカ株式会社

従業員が消防活動を行う際は、勤務者が地域での消防団活動を優先的に出来るよう出勤等に対する配慮がなされている。また、実例は無いものの、有事の際には事業所の資器材等の提供を可能としており、事業所全体で支援している。加えて、地元方面団に当該事業所内の防火水槽等の水利資料、消防用設備等図面、建物平面図等を提供し連携を図り、緊急車両進入経路の整備（草刈、舗装等）を行い、地元方面団へ情報の提供を随時行っている。



事務所での集合写真

DATA

所在地	山口県萩市
人口	49,560人
面積	698.31km ²
業種	一般・産業廃棄物処分・リサイクル業
従業員	30人
うち団員	6人
萩市消防団	6人(うち女性0人)

消防活動を通じて 地域の安心・安全を造る

徳島県
株式会社群生

当事業所は消防団活動を通じて地域の防災力向上を目標とし、地元地域で開催されるイベントに積極的に参加し、防災に対する啓発活動や消防団の重要性を地域住民に周知している。

また、災害発生時には、就業中であっても災害に出動できるよう従業員に対して配慮し、当事業所が所有する重機等の活用依頼があれば貸し出しをするとともに、重機操縦資格を有する団員を派遣することで、災害現場における活動の円滑化に大きく寄与している。



地域のイベントで防災啓発活動を実施

DATA

所在地	徳島県徳島市
人口	258,554人
面積	191.39km ²
業種	建設業
従業員	11人
うち団員	5人
徳島市消防団	5人(うち女性0人)

積極的に消防団活動に協力し、 地域住民の安心安全を守る地域貢献型企业

愛媛県
イナン電気株式会社

火災・水防・捜索等の有事出動において、地域住民の生命と財産を守るべく、迅速な消防団活動が行える職場環境を構築している。また、夏季及び冬季訓練、出初式、消防操法等各種訓練において、団員が参加しやすいよう配慮するとともに、地元消防団員として地域に貢献できるよう積極的に消防団活動の支援を行っている。



消防団員による消火器の取扱い説明。また、消火栓を使用した放水訓練の様子



DATA

所在地	愛媛県宇和島市
人口	77,465人
面積	468.16km ²
業種	製造業
従業員	64人
うち団員	13人
宇和島市消防団	13人(うち女性0人)

会社全体で消防団活動を積極的に支援！

福岡県
株式会社PLUS通信

弊社では、平時から従業員全員が地域防災を念頭に業務を行っており、勤務中に出勤要請があった場合は、消防団である従業員が迅速に出動できるように社内体制を整えている。

また、従業員が勤務中に火災や風水害等に出動し災害活動を行った場合は、代休が取得できるように社内規約を定めている。

災害活動以外でも夏祭りやどんと焼きの警備等の地域行事に参加する場合は、優先的に年休を取得できる等、会社全体で消防団活動を積極的に支援している。



従業員が選手として参加するポンプ操法大会の訓練の様子



DATA

所在地	福岡県北九州市
人口	68,844人
面積	36.26km ²
業種	電気通信設備工事業
従業員	15人
うち団員	6人
北九州市八幡東消防団	6人(うち女性0人)

地域を愛し地域に愛される 地域第一主義の協力事業所

佐賀県
株式会社トスプロ

当事業所は、社長自ら鳥栖市消防団員として積極的に消防団活動に従事する一方で、他自治体消防団員を含む計7名の消防団員が勤務しており、日頃から、消防団員が行う地域活動などへの積極的な参加に対し、柔軟な配慮が行われている。

平成28年7月に実施された第33回佐賀県消防操法大会では、ポンプ車操法の部に出場する鳥栖市消防団の代表として、社内の団員から1番員の選手を輩出した。消防団活動に協力することで、地域の消防防災体制の充実強化に寄与している。



鳥栖市長と対談する(株)トスプロ社員の消防団員(右から3人目が社長の野田哲郎氏)



DATA

所在地	佐賀県鳥栖市
人口	72,910人
面積	71.72km ²
業種	ガス・水道工事・空調工事・リフォーム事業
従業員	25人
うち団員	7人
鳥栖市消防団	4人(うち女性0人)
筑紫野市消防団	1人(うち女性0人)
吉野ヶ里町消防団	2人(うち女性0人)

地域と共に！ 安全・安心を守る！

長崎県
博多海陸運送株式会社 対馬支店

日頃から地域防災力を担う消防団の重要性を深く認識し、従業員の入団促進に積極的に取り組むとともに入団しやすく、かつ、活動しやすい職場環境を整備している。

火災・警戒・捜索等の災害出動関係については、勤務免除扱いで対応している。

夏季訓練、出初式、ポンプ操法訓練、地区ごとに開催される中継送水訓練など、従業員の消防団活動に対し活動しやすい職場環境を整備している。



DATA

所在地	長崎県対馬市
人口	31,457人
面積	708.63km ²
業種	運送業
従業員	39人
うち団員	10人
対馬市消防団	10人(うち女性0人)

平成30年度
消防庁消防団
協力事業所表示証
交付事業所

33事業所等

掲載内容は、各団体から提供のあった
原稿及び写真等に基づき作成

優れたモノづくりの技術とともに 安心・安全なまちづくりにも貢献

北海道
株式会社日鋼機械センター

当事業所は、石油コンビナート等特別防災区域内に位置しており社内で自衛消防組織を結成し防災意識の向上に努めている。消防団への入団については、職場の先輩が後輩を指導育成していく中で勧誘の幅を広げ、現在20人の団員が在籍している。消防団活動においては、団員が出動するために職員間で協力する体制を構築している。消防出初式や消防団総合訓練大会などの主要行事のほか、研修や各種訓練などの消防団の年間行事にも、団員である職員が積極的に参加できるよう出勤扱いとするなど年間を通じて協力している。



従業員が参加して実施された
応急手当普及員講習



DATA

所在地	北海道室蘭市
業種	製造業
従業員	322人
うち団員	20人
室蘭市消防団	20人(うち女性0人)

消防団員とともに 消防防災力向上に努めます

北海道
三協機械建設株式会社

当社は、消防団活動の重要性を理解し、災害等発生時において就業中は、消防団員を勤務扱いで出動させている。また、消防訓練大会や出初め式等の消防団行事が開催される際には、積極的な参加支援を実施するなど、団員が活動しやすい職場環境を整え、地域に根ざした活動を支援している。

また、建設業という職種から、災害発生時には重機等を提供するなど、地域の消防防災体制の充実強化にも積極的に取り組んでいる。



勤務する消防団員が消
防演習に参加する様子



DATA

所在地	北海道松前町
業種	建設業
従業員	35人
うち団員	6人
渡島西部広域事務組合 松前消防団	6人(うち女性0人)

消防団活動を通じ 地域社会貢献する事業所

青森県
株式会社藤本建設

消防団活動に対して、業務に支障のない範囲で、優先的に休暇等を取得できる体制を整備しているとともに、災害時には所属する団員が、建設業で培った知識・技術を生かし地域の安全のため即時対応している事業所である。

また、従業員のうち6名にあっては、青森市青森消防団に所属し、消防団の中において中心的な役割を果たしており、地域の防災活動にも積極的に参加しているところである。



団員の規律・士気の高揚や入団促進を図るため、毎年青森市の繁華街で消防団パレードを実施している

DATA

所在地	青森県青森市
業種	建設業
従業員	56人
うち団員	6人
青森市消防団	6人(うち女性0人)

地域防災の主力、 消防団活動への理解を！

岩手県
東北汽船港運株式会社

当事業所は、地域貢献を図ることで、社会責任を果たすべきであるとの認識に基づき、地域防災の要である消防団活動を推進している。勤務時間中に火災出動等が生じた場合は、優先して消防団の任務に就かせ、消防団活動に対する協力体制のもと憂いなく活動できる環境を整えている。また、AEDを事業所に設置するとともに、救急講習会へ積極的に参加し、心肺蘇生法を習得するなど、地域防災力の向上に努めている。



平成31年大船渡市消防出初式、ラッパ隊によるドリル吹奏の様子

DATA

所在地	岩手県大船渡市
業種	港湾運送事業、金融・保険業
従業員	62人
うち団員	10人
大船渡市消防団	10人(うち女性0人)

住みよい環境づくりに貢献することが 私たちJAの使命

岩手県
岩手中央農業協同組合

JAはお互いに助け合い、お互いに発展していく「相互扶助」を共通の理念として運営しており、地域の一員として農業の発展と健康で豊かな地域社会の実現に向け事業活動を行っている。今年度の事業計画では組合員と地域住民が安心して暮らせるよう、職員が率先して消防団への加入等、地域活動に参加することを掲げ実践している。管内での災害発生時等は、消防活動に必要な事業所施設の提供を行い、また、勤務時間内の災害出動要請があった場合には、速やかに職員が出動できる職場環境を構築している。



消防演習の風景



DATA

所在地	岩手県紫波郡紫波町
業種	農業協同組合
従業員	492人
うち団員	63人
盛岡市消防団	18人(うち女性0人)
紫波町消防団	37人(うち女性0人)
矢巾町消防団	8人(うち女性0人)

安全で安心して生活できる地域を目指し、 消防団活動を応援します！

宮城県
株式会社佐々木組

当社は、消防団員の災害活動関係に対し、勤務中に出勤要請があった場合でも優先して出動できる態勢としており、その場合は出勤した日数に関わらず有給扱いとしている。また、出初式、消防団の地域活動など、消防団行事関係に参加又は出動するために休暇を申し出た場合に関しては社内規定の範囲内ではあるが最優先で認めている。さらに、宮城県認定防災指導員が在籍しており、災害発生時には当社保有の資機材を提供することとしており、防災、減災、復旧に地域と協力している。



緊急時を想定し、各現場毎に地域住民にも声掛けし、普通救命講習を実施している



DATA

所在地	宮城県大崎市
業種	建設業
従業員	30人
うち団員	7人
大崎市消防団	6人(うち女性0人)
美里町消防団	1人(うち女性0人)

環境保全と地域防災力の向上を目指し 安全・安心のまちづくりに貢献

宮城県
協業組合富谷環境

地域防災力の中心となる消防団の重要性を深く理解し、従業員の消防団活動への参加を支援している。消防団に所属している従業員が中心となり、ごみ収集車の車両火災対応訓練や、事業所内の機械破損・オイル漏洩等を想定した消防・防災訓練を継続的に実施している。環境と防災の両側面から安全・安心のまちづくりに貢献しており、事業所全体で地域防災力の向上に大きく寄与している。



消防署と合同でごみ収集
車火災対応訓練を実施

DATA

所在地	宮城県富谷市
業種	一般廃棄物処理業等
従業員	60人
うち団員	12人
富谷市消防団	6人(うち女性0人)
大崎市消防団	1人(うち女性0人)
大衡村消防団	1人(うち女性0人)
松島町消防団	2人(うち女性0人)
仙台市消防団	1人(うち女性0人)
大和町消防団	1人(うち女性0人)

忠犬ハチ公と秋田犬のふるさとを守るため、 消防団活動を支援します！

秋田県
株式会社大森土木

地域に根ざした企業を理念として、地域貢献活動に積極的に取り組んでおり、消防団に対する重要性を深く認識し、勤務時間中であっても消防団活動へ積極的に参加できるよう有給休暇等の取得を推奨するなど、消防団活動へ参加しやすい環境を整えている。

また、出初式には、団員6人全員が参加するなど、消防団の各種行事への参加にも配慮し、地域防災力の向上に大きく貢献している事業所である。



積雪時には消防水利確保のため、消火栓の除雪作業を実施

DATA

所在地	秋田県大館市
業種	建設業
従業員	54人
うち団員	6人
大館市消防団	6人(うち女性0人)

地域住民の生活と 安全・安心なまちづくりに貢献

群馬県
前橋市農業協同組合

地域に根ざし、地域とともに成長する経済的事業体として豊かな「暮らし」と「まちづくり」に貢献している。職員30名が前橋市消防団に入団しており、積極的な消防団活動に取り組んでいる。また、前橋市と「災害時における応急生活物資供給等に関する協定書」を締結し、地震等の災害時に被災した市民等に対して、応急生活物資の供給可能な体制を保持している。消防団協力事業所として、消防団員へのバックアップ体制向上を図り、「活力とゆとりある農業」と「安全・安心なまちづくり」を目指している。



前橋市農業協同組合役員、前橋市消防団長、前橋市農業協同組合に勤務している消防団員



DATA

所在地	群馬県前橋市
業種	農業協同組合
従業員	472人
うち団員	30人
前橋市消防団	30人(うち女性0人)

消防団活動に 積極的に協力する事業所

神奈川県
株式会社大津スイミング企画

地元に着したスイミングスクールとして運営している一方で、地域への貢献の一環として消防団事業にも積極的に協力している。

社員の中にいる消防団員12名を中心として消防団行事や地域行事の警備活動など様々な活動を実施している。

また、大規模災害発災時等にはプールの水を消火活動用水として提供するように消防署と協定を結んでいる。



プールの休館日を利用して、消防団員への着衣泳の体験及び水難救助法の体験を実施している



DATA

所在地	神奈川県横浜市
業種	サービス業
従業員	42人
うち団員	12人
横浜市港南消防団	12人(うち女性3人)

地域とともに 安心・安全なまちづくりを行います

新潟県
南雲土建株式会社

当事業所は消防団員が7人在籍しており、勤務中に火災や水害等の緊急出動要請があった場合は消防団活動を優先させ、被災現場への派遣に積極的に応じるべく、勤務時間として出動できる体制を整えている。地域防災力の重要性を強く認識しており、災害発生時は当社で保有する重機・車両・資機材の貸出しも行っている。消防団員の減少が懸念されている実情を踏まえ、消防団への深い理解を示し地域住民の安心と安全を守る消防団活動に積極的に参加できる体制を整えている。



昨年度県消防大会に従業員が1番員として出場し、6位入賞を果たした

DATA

所在地	新潟県十日町市
業種	建設業
従業員	30人
うち団員	7人
十日町市消防団	6人(うち女性0人)
津南町消防団	1人(うち女性0人)

地域社会に貢献し、安心安全を提供できる 事業所を目指しています！

石川県
白山農業協同組合

農業や信用共済等を通して地域社会と密接に携わる業務を請け負う中で、管轄区域内での火災や搜索等の災害出動案件があった際には、いち早く地域のために活動できるよう職場環境の整備を図るとともに、職員の出動に対する理解促進を積極的に推し進めている。

また、主催するイベントの際には、地域の消防団に協力を依頼し「梯子登り」を披露してもらうなど、消防団との協力体制の構築にも尽力している。



管轄区域内での合同火災防ぎょ訓練風景

DATA

所在地	石川県白山市
業種	農業協同組合
従業員	112人
うち団員	12人
白山市南消防団	12人(うち女性1人)

消防団活動に 積極的に協力している事業所

石川県
株式会社タキノ工業所

当事業所では、若手職員に対して、地域貢献の為、積極的に消防団に入団することを薦めている。

また、消防団員である従業員が、就業時間中に火災等災害出動した場合は、有給休暇を与え、団員の健康管理に寄与しており、消防出初式等、消防団行事に対して積極的に参加できるように支援を行っている。



出初式は、1年間の無火災と町民の皆様の安心・安全を祈願するとともに、消防職員・消防団員が、消防ポンプ自動車による一斉放水を通じて、災害に立ち向かう「穴水町消防団」の勇姿を披露している

DATA

所在地	石川県鳳珠郡穴水町
業種	製造業
従業員	48人
うち団員	6人
輪島市消防団	2人(うち女性0人)
穴水町消防団	4人(うち女性0人)

「災害に強い安全で安心なまちづくり」 を応援します

福井県
株式会社若狭松葉

当社は、製造のプロ集団としての認識を持ち、事業と地域の発展に邁進することを経営方針としており、その一環として社員が消防団員として活動することを会社全体でバックアップしている。この経営方針が認められ、平成22年度には管轄消防組合の消防団協力事業所として認定されている。特に自衛消防隊の操法指導を積極的に行っており、当社所属消防団員を中心に自衛消防操法大会に参加、地域自衛消防隊の模範となる操法を披露し、地域と消防団の活性化に寄与している。



消火器取り扱い訓練の様子

DATA

所在地	福井県若狭町
業種	製造業
従業員	54人
うち団員	7人
三方消防団	5人(うち女性0人)
上中消防団	1人(うち女性0人)
美浜消防団	1人(うち女性0人)

安心して暮らせる豊かな地域社会実現を目指し、 地域密着の活動で貢献する事業所

山梨県
南アルプス市農業協同組合

当事業所では「相互扶助」の精神のもと地域に密着した事業運営をしており、消防団の必要性を強く認識し、常に相当数の従業員が消防団員として在籍することで、地域消防力の維持向上に貢献している。火災等災害時に出動命令が発せられた際には、消防団員が消防団活動を優先できる体制整備を日頃から図っていることで、勤務時間中であっても憂いなく活動できる配慮がなされている。また、消防団員サポート事業の加盟店になっており、消防団員に対する応援活動にも取り組んでいる。



事業所におけるAEDや防災
テント等防災用品の備え

DATA

所在地	山梨県南アルプス市
業種	農業協同組合
従業員	319人
うち団員	20人
南アルプス市消防団	20名(うち女性0人)

消防団活動・地域防災活動を通して 社会貢献に積極的に取り組んでいます

長野県
高木建設株式会社

従業員78人のうち17人が消防団に所属しており、火災や災害等への緊急出動、消防団出初式等の式典・消防操法大会・訓練・研修会参加等を積立休暇の使用目的及び範囲として認め、通常の年次有給休暇に優先して取得することを就業規則に定めるなど、積極的に消防団活動に参加できる環境づくりや地域防災力の向上に寄与している。

平成29年3月4日、小川村中尾地籍において火災を発見し、従業員4名で初期消火活動に当たり、被害を最小限に止めた功績が認められ、長野市消防長より感謝状が授与された。



迅速かつ的確な初期消火活動
により被害を最小限に止めた
功績が認められ、長野市消防
長より感謝状が授与された

DATA

所在地	長野県小川村
業種	建設業
従業員	78人
うち団員	17人
小川村消防団	8人(うち女性0人)
長野市消防団	8人(うち女性0人)
高山村消防団	1人(うち女性0人)

消防団活動への協力を通じ、 地域の消防防災力向上に貢献

長野県
株式会社ハタナカ

地域に根差し、地元の若者の雇用に貢献できるよう、30代以下の従業員には地元消防団への所属を推奨している。勤務中における出動については、消防団活動を優先するよう配慮し、出初式やポンプ操作訓練・火災想定訓練といった各種訓練への参加を勧めることで、地域に役立つ人材の育成に力を入れている。また平成29年3月には、従業員が原野火災の初期消火にあたって被害を最小限に抑えるなど、社を挙げて地域の消防防災に貢献している。



H31年木曽町消防団出初式の様子



DATA

所在地	長野県木曽町
業種	建設業
従業員	11人
うち団員	6人
木曽町消防団	5人(うち女性0人)
王滝村消防団	1人(うち女性0人)

消防団活動を支援することにより 地域防災に協力

岐阜県
株式会社東海技研

火災・水防・捜索等の災害関係の出動については、就業規則付属の消防団活動に関する規定を定め、地域防災力の充実に貢献している。具体的には、勤務時間中の訓練に対しては、勤務時間の変更に応じ、災害出動に対しては、特別休暇の対象としている。また、この制度の適用に当たり対象従業員の賃金や昇給などに不利益な取り扱いをしないよう定めている。



社内消防訓練風景



DATA

所在地	岐阜県恵那市
業種	製造業
従業員	61人
うち団員	9人
恵那市消防団	7人(うち女性0人)
中津川市消防団	2人(うち女性0人)

人々の暮らしを安全・快適にする技術や製品を提供し、 社会に貢献するKYBグループ

岐阜県
KYB金山株式会社

災害等の発生時において、就業中の消防団員を特別休暇扱いで出動させることを会社の内規に定め、消防団員が活動し易い職場環境を整え、消防団活動に深い理解を示している。また、過疎化が進み少子高齢化の中、消防団員の確保にも積極的に取り組んでいる。



地域に貢献するべく、社員が普通救命講習を受講し、災害発生時に備えている

DATA

所在地	岐阜県下呂市
業種	製造業
従業員	284人
うち団員	71人
下呂市消防団	71人(うち女性1人)

会社全体で 消防団活動に貢献

静岡県
有限会社ワタナベ電気防災

当事業所は、勤務時間内の災害出動等の対応は勤務扱いとし、災害が発生した場合は迅速に出動できる体制を構築している。消防出初式や消防本部との合同演習等の消防団活動にも積極的に参加できるよう配慮されている。

また、所属する分団の電気関連の整備や備品の提供を行い、実災害や訓練時においては、現場までの移動手段として車両の提供を行うなど、団員としての活動だけでなく、会社全体で消防団活動に貢献している。



熱海消防出初式において民間協力者として表彰を受けている様子

DATA

所在地	静岡県熱海市
業種	建設業
従業員	10人
うち団員	6人
熱海市消防団	6人(うち女性0人)

地域に貢献し、 地域と共に繁栄する企業を目指します

静岡県
株式会社下田電化設備工業

火災・水防等の災害出動や行方不明者捜索の際は、日数に関わらず出勤扱いとして対応している。消防団員を抱える企業が出来る地域貢献の一環として、消防操法に係る訓練や大会への選手輩出、本部訓練指導員への出向など、本人の意思を尊重し、積極的にバックアップをしている。

消防設備工事業も営んでおり、消防設備士の資格取得に係る費用の補助や年々変化する法改正に対応する為、各種講習会への参加促進、知識向上を図っている。



平成31年下田市消防団出初式の様子



DATA

所在地	静岡県下田市
業種	小売業、建設業
従業員	12人
うち団員	5人
下田市消防団	5人(うち女性0人)

地域防災の要となる消防団へ協力し、 地域に貢献

愛知県
愛知みなみ農業協同組合

当事業所は、農業者を中心とした地域住民の方々が組合員となり、相互扶助を共通理念の基、地域に根差した組織として社会貢献に努める中で、消防団活動へ積極的に協力している。

現在は、60名の従業員が消防団員として活動しており、彼等が積極的に消防団活動へ参加できるよう服務体制を配慮するとともに、消防団が毎年実施するポンプ操法訓練時には、市内各地にある施設を訓練場として提供し、消防団の充実強化に寄与している。



山林火災訓練の様子



DATA

所在地	愛知県田原市
業種	農業協同組合
従業員	474人
うち団員	60人
田原市消防団	60人(うち女性0人)

守りたい未来。クレーン操作と団員の技術向上で 京都の防災支えます！

京都府
株式会社日本サルベージサービス

当事業所は、事故車の救援、ビル建設用の鉄骨建方、橋桁架設、橋梁、機械重量物の据え付け・解体などクレーン作業での吊り上げを主な業務とする。京都市消防局とは昭和39年に「人命救助のための援助活動を行う」という協定を結んでいる。京都市内全域の災害に対し、要請があった場合はいち早く出動し救助活動を行う。また普段は車庫として利用しているクレーンのガレージも災害時は避難場所として開放。社内には食料・毛布などを備蓄するなど、近隣住民に対する防災で地域を支えている。



平成31年京都市消防出初式

DATA

所在地	京都府京都市
業種	建設業
従業員	159人
うち団員	12人
京都市南消防団	12人(うち女性0人)

「持ちつ持たれつ」 安全・安心のために

広島県
谷本建設有限会社

当事業所は、広島県三原市の佐木島という離島にある建設業者である。地域に密着した企業として消防団の重要性を深く認識し、仕事と消防団の両面で活躍している。地域貢献の理念から従業員が消防団員に入ることは必然となり、災害が発生すれば現場へ駆けつけている。また、その現場で必要な資機材を提供するなど支援体制も整えている。高齢化等により居住環境が厳しい離島で、居住・定住環境を維持し、地域防災力を担う消防団員として、また、地元企業としてこれからも地域の安心安全に貢献していく。



佐木島(離島)内で救急支援車の取扱い訓練、ヘリコプター支援訓練の様子

DATA

所在地	広島県三原市
業種	建設業
従業員	6人
うち団員	5人
三原市消防団	5人(うち女性0人)

地域防災の核となる人材を育成し 地域防災力の向上に貢献

山口県
宇部フロンティア大学

宇部フロンティア大学は、現在82人の消防防災サポーターが在籍しており、消防防災サポーターの活動を通して消防団への理解を深め、地域防災体制の充実強化に寄与している。

活動は、救命講習の受講、宇部市防災訓練での避難所運営活動、お祭り等のイベントにおいて防災意識の普及啓発に取り組み、防災に対する知識、重要性を学び、この活動を通して若い世代に消防団活動への理解を深める発信源として活躍している。



救命講習を受講する消防防災サポーター



DATA

所在地	山口県宇部市
業種	大学
従業員	573人(学生499人、職員74人)
うち団員	82人
宇部市消防団	82人(うち女性76人)

地域も職場も安全第一で 消防団活動を積極的に支援します

徳島県
株式会社群生

当事業所は、従業員に対し積極的に消防団への入団を勧め、団員確保および地域の防災力向上に寄与している。災害発生時には、就業中であっても災害出動できるように配慮し、災害現場において会社で使用している建設資材・重機の活用依頼があれば、柔軟に対応するとともに、訓練、研修、広報及び警戒等にも参加しやすい環境を整えている。

また、入団促進ポスターやパンフレット等を会社事務所に掲示、随時配布することで消防団への入団を促進するとともに、徳島県消防団応援の店にも登録し消防団員を応援、地域の防災力向上に貢献している。



重機取扱い資格のある従業員(団員)による重機の取扱いの様子



DATA

所在地	徳島県徳島市
業種	建設業
従業員	11人
うち団員	5人
徳島市消防団	5人(うち女性0人)

島嶼部の安全安心を守り、 地域防災力向上に貢献します

愛媛県
株式会社池田水道

当事業所の消防団員は全員が島嶼部の分団に所属しており、災害発生時には事業所をあげて迅速に対応するなど、地域防災力の向上に貢献している。

また、8名の従業員中5名が消防団に所属しており、就業時間中に出勤要請がかかる場合や消防団活動によって出勤が遅れる場合でも、消防団員である従業員が個人的に不利益を被ることの無いよう配慮されている。



池田博通社長が分団長として
受賞した表彰状(旧中島町)

DATA

所在地	愛媛県松山市
業種	水道業
従業員	8人
うち団員	5人
松山市消防団	5人(うち女性0人)

事業所をあげて、 安全安心な地域づくりを目指します

愛媛県
有限会社渡部石材

当事業所は、8名の従業員中5名が消防団に所属しており、消防団活動を行った従業員が個人的に不利益を被ることの無いよう配慮されている。

また、有事の際には事業所で保有する重機を使用するなど、災害に対応できる体制を整えており、地域の消防防災体制の強化に寄与している。



事業所が所有するクレーンは、
災害に対応することも可能で
ある

DATA

所在地	愛媛県松山市
業種	製造業
従業員	8人
うち団員	5人
松山市消防団	5人(うち女性0人)

会社全体で消防団活動を支援し、地域の安心・安全に貢献します

愛媛県
株式会社今治ホンダ

当事業所は、地域防災の一翼を担う消防団の重要性を認識しており、従業員である消防団員が支障なく消防団活動できるよう支援する体制が整っている。勤務中における災害出動、訓練出動やその他消防団行事への参加についても出勤扱いとするなど配慮している。

また、消防団員の確保にも積極的に協力するなど、消防団への支援・協力を通じて地域防災力の向上に寄与し、社会貢献に努めている。



自治体消防制度発足70周年
記念特別知事表彰を受賞する
女性消防団員(当事業所員)



DATA

所在地	愛媛県今治市
業種	小売業
従業員	20人
うち団員	5人
今治市消防団	5人(うち女性2人)

ハード面・ソフト面共に消防団活動に積極的な協力をしている事業所

愛媛県
株式会社プロシーズ

当事業所は、有事の際いち早く災害現場に駆けつけ、場合によっては所有している重機・山林用運搬車・トラック・チェーンソー等の資機材を災害対応用として提供できる体制である。また、消防団員を対象とした資機材取扱訓練では、森林整備のノウハウを活かし、経験の浅い消防団員にチェーンソー取扱い要領等の実践的な指導を行っており、ハード面だけではなく、ソフト面においても地域の防災力向上に貢献している。



文化財防災訓練の様子



DATA

所在地	愛媛県伊予市
業種	小売業、農林業
従業員	22人
うち団員	6人
伊予市消防団	6人(うち女性1名)

地域防災の要として 市民の安全・安心は私たちが守ります

福岡県
有限会社古門造園

従業員10名のうち5名が消防団員として在籍しており、3名が班長以上の役付き団員として活動している。代表取締役は、副分団長として消防団活動に尽力する一方で、事業主としても社会貢献を優先し、勤務中可能な限り消防団員である従業員が災害等の消防団活動に従事できるよう職場環境を整備するなど会社全体でサポートしている。また、積極的な消防団への入団促進活動を行っており、消防団の充実強化に大きく寄与している。



事業所従業員が参加する水防訓練の様子

DATA

所在地	福岡県北九州市
業種	造園業
従業員	10人
うち団員	5人
北九州市八幡西消防団	5人(うち女性0人)

消防団員を支援し、 地域の安心と安全に貢献します

長崎県
有限会社共栄産業

当事業所は消防団活動の重要性を認識し、地域住民の安心・安全を守るために積極的に地域の活動に参加するよう取り組んでいる。また、消防団活動を通じた地域への社会貢献活動を積極的に実施しており、災害が発生した場合には、消防団員である従業員が優先して災害活動に従事できるように勤務体制を整えている。また、消防出初式や訓練などの消防団の行事や地域の防災活動を積極的に支援している。



従業員が参加した指導消防団員養成研修の風景

DATA

所在地	長崎県長崎市
業種	製造業
従業員	38人
うち団員	5人
長崎市消防団	5人(うち女性0人)

消防団活動を支援し 安心して住み良い町づくりに貢献する

長崎県
港祐産業有限会社

当事業所は、従業員が消防団活動と社業の両立ができる体制を整えている。勤務時間内で消防団員の出勤がかかった場合は、消防活動への参加を勤務扱いとし、優先して消防活動にあたらせている。消防活動が長時間に及んだ場合には、休養のための休暇も認めており、職場全体で消防団活動に対して十分に理解を示している。また、有事の際には、会社で所有している資機材を率先して提供しており、職場を挙げて地域の消防防災力の充実強化に努めている。



消防出初式での分列行進の様子



DATA

所在地	長崎県平戸市
業種	製造業、販売業
従業員	25人
うち団員	5人
平戸市消防団	5名(うち女性0人)

【編】 消防庁 国民保護・防災部 防災課 地域防災室

〒100-8927 東京都千代田区霞が関2丁目1番2号

電 話 03-5253-5111(代表)

03-5253-7561(直通)

ファックス 03-5253-7576

ホームページ <http://www.fdma.go.jp/>

